

IV 青谷上寺地遺跡の弥生犬一頭蓋骨・下顎骨資料の検討から一

門脇 隆志¹

1 鳥取県 とっとり弥生の王国推進課

1 はじめに

青谷上寺地遺跡からは、これまでの発掘調査で、最小個体数 80 以上にものぼる多数の犬骨が出土している¹⁾。これは弥生時代の遺跡からの出土例としては突出した点数であり、弥生犬を研究するうえで極めて重要な資料群といえる。また、「最古の家畜」と称されるとおり、イヌは永きにわたる人間との関わりが反映されている動物であることを考えれば、これら出土犬骨の研究は当遺跡の人間活動の復元に資するところが大きいと期待されよう。

犬骨のほとんどは高規格道路建設に伴う 1 次調査（平成 10 年度から 13 年度実施）で出土したものである。国道調査区の報告では、遺構から出土した動物骨を対象とした記載のなかで、特に埋葬された 2 個体のイヌについて詳述されている（井上・松本 2001）。県道調査区の報告では部位別・大別時期別の出土点数に加え、歯槽膿漏や骨折痕の認められる下顎骨等についても記載し、埋葬されているものがあることも含め、当遺跡のイヌを飼育された家犬と推定している（井上・松本 2002）。また、両報告とも当遺跡のイヌの形質について言及がなされており、その後の研究成果報告では、人の移動に伴う「朝鮮半島や大陸系のイヌ」の移

動が形質に影響した可能性が示された（井上 2006）。これは、その背景に当遺跡の特徴である海を介した交易を想定したものとみられる。このように、一連の出土犬骨の報告にあたって人間との関係性を踏まえた考察がなされた点は特筆されよう。

本稿は研究のさらなる進展を期して、これらの犬骨のうち、形質や生存時の情報が多く得られる頭蓋骨・下顎骨全点の基礎的なデータを提示することを主目的とするものである。さらに、その分析を通して当遺跡のイヌの在り方とその背景にある人間活動について考察を試みてみたい。

2 分析の方法と資料の概要

(1) 先行研究から

まず、データの収集・整理と分析の方向性を明確にすべく、先行研究によって示されてきた弥生犬の特徴について簡単におさえておきたい。本稿において言及する主な関連遺跡については表 1 を参照されたい。

一般的に、弥生犬は縄文犬との対比から論じられることが多い。これは、貝塚を中心とした多数の出土犬骨によって確立している縄文犬のイメージに対し、弥生犬のそれが特に用途の面において大きく異なるためであろう。すなわ

表 1 本稿において言及する主な関連遺跡

資料名	遺跡所在地	時期	出土犬骨の概要	主要文献
田柄貝塚	宮城県 気仙沼市	縄文時代 後期前半～ 晩期前半	貝層部分を中心として、縄文時代の報告例として最も多い 22 基もの埋葬犬が検出されている。	茂原・小野寺 1986
朝日遺跡	愛知県 清洲市・名古屋	弥生時代	弥生時代全期にわたってイノシシ類、シカに次ぐ多数の犬骨が出土している。犬骨は散乱した状態で見つかっており、埋葬されたものはない。	西本 1994
亀井遺跡	大阪府 大阪市	弥生時代 中期～後期	中期後半の溝状遺構 SD-03(Ⅱ) 層下位において、折り重なるように検出された 1 号犬 (♂) と 2 号犬 (♀) は犠牲獣と推定されている。	宮崎 1982・ 1984
原の辻遺跡	長崎県 壱岐郡	弥生時代 中期～後期	集落の環濠から多数の犬骨が出土しており、獣骨に占める犬骨の比率は半数以上にのぼる。	茂原・松井 1995
勒島遺跡	韓国 慶尚南道	弥生時代 併行期	26 基以上の埋葬人骨にともなって 28 基以上の埋葬犬が検出されている。これらの形質は多様で、小級～大級の 5 タイプ全てのイヌが認められる。	宮崎 2008

ち、猟犬として「人間のパートナー」であった縄文犬に対して、食用とされる弥生犬という対比であり、その最大の根拠となっているのが両時代におけるイヌの出土状況の著しい違いである。弥生時代になると、田柄貝塚（茂原・小野寺 1986）に代表される縄文時代、特に後晩期に多数みられる埋葬例が極めて少なくなる。朝日遺跡（西本 1994）をはじめ弥生時代の犬骨の報告では、各部位が散乱した状況で出土しているとされるものが多く、230 個体以上確認されている弥生犬のうち全身の骨が揃う例（本来は揃っていた可能性が高い例）は 15 例ほどであるという（内山 2009）。特に犬骨の出土量が多く、出土獣骨の大半を占める原の辻遺跡では、解体痕が認められること、死亡年齢が低いものが多いことも含め、多くのイヌが食用とされたと推定されている（茂原・松井 1995）。

食用としての利用に比べ、弥生犬の猟犬としての使役が出土犬骨から論じられることは少なく、亀井遺跡 1 号犬の肩甲骨の骨折痕（宮崎 1982・1984）、青谷上寺地遺跡出土の下顎骨 1 点に認められる骨折痕（井上・松本 2002）の報告において、その可能性に触れられた程度である。一方で、縄文犬にしばしば認められる骨折痕が少ないこと（西本 1994）や、欠歯も殆どないこと（茂原・松井前掲）、訓練が必要となる期間に対して死亡年齢が低いこと（内山 2009）は猟犬としての使役が低調であった根拠とされている。このような使役における変化の背景として、稲作文化とともに大陸から犬食風習が伝播したことを想定する意見もある（西本 1995 など）。

弥生犬の形質については、縄文犬に比べやや大型化するという点は概ね意見の一致をみているものの、額段（ストップ）が深くなる、頬骨弓幅が広がるなどといった変化を積極的に論じるもの（西本 1999 など）がある一方で、縄文犬との形質差は少ないとする指摘（茂原 1991 など）もある。前者は、その背景として渡来系の弥生人に伴って、犬食風習とともに新

しいタイプのイヌが導入されたことを想定するもので、血中タンパク質の遺伝子分析によって一部の日本犬と朝鮮半島のイヌの類似性が示された（田名部 1985）ことと同調的であることが注目される。弥生時代中期以降、縄文犬よりも大型の中級犬が認められるようになるという内山幸子の指摘も外来のイヌがもたらされた可能性を窺わせるが、一方で弥生犬は縄文犬に比べ形質のばらつきが大きいともされている（内山 2009）。縄文犬と弥生犬との比較、あるいは亀井遺跡の報告（宮崎 1982・1984）のように弥生犬相互の形質を詳細に比較した例が少ないなか、弥生犬の形質的特徴や、外来のイヌによる影響の程度は、いまだ明確でないといえるだろう。

このように先行研究を概観すると、弥生犬の特徴が縄文犬との対比で示されてきたこと、使役と形質が主な論点となってきたこと、その変化の背景に外来の要素が想定されてきたことが分かる。換言すれば、弥生犬の使役・形質は稲作文化の伝来により始まった弥生時代における社会変化を表出するものとして捉えられてきたということであり、ここに弥生時代研究における意義が見出されてきたといえよう。

本稿では、上記の先行研究を踏まえ、人間との関係性の解明を主眼として表 2 のように設定した各種分析を行うこととする。青谷上寺地遺跡出土犬骨は点数が多く、各種分析を定量的に行えるという研究上のアドバンテージがあり、当遺跡のイヌの使役や形質の解明だけでなく、これまで示されてきた弥生犬像についても、客観的な検証が行えるものと期待される。

表 2 分析項目と検討内容

分析項目	主な検討内容
出土状況の精査	時期別・地区別出土状況 既報告資料の詳細
解体痕の観察	時期別・部位別出現率および形態
病変・骨折痕の観察	時期別・部位別出現率および形態
歯牙の観察	ダメージの多寡、死亡年齢の傾向
計測値分析	形質的特徴と変異幅

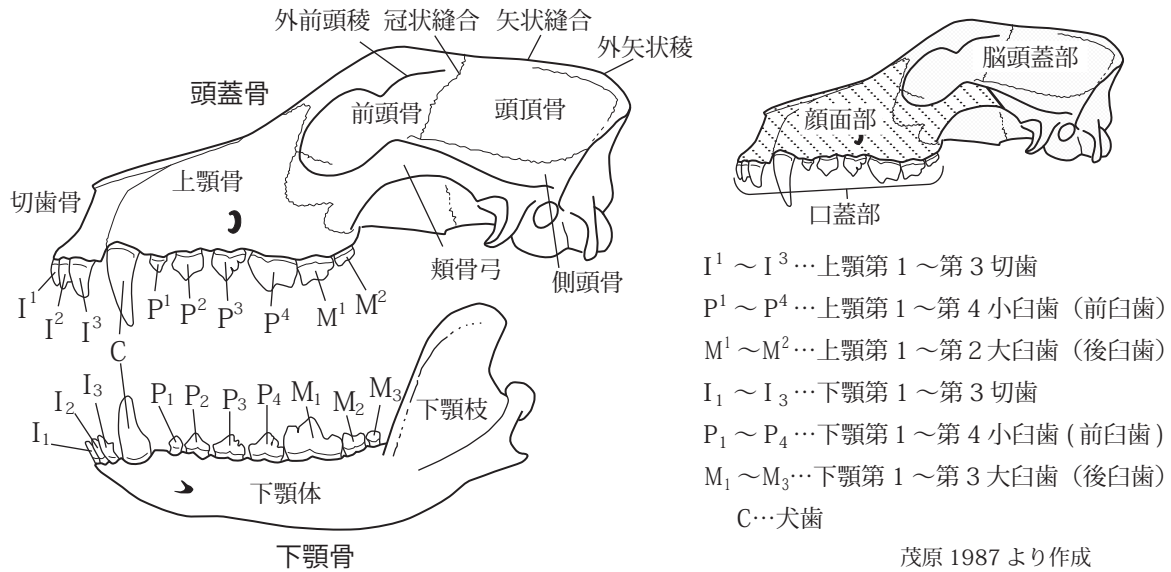


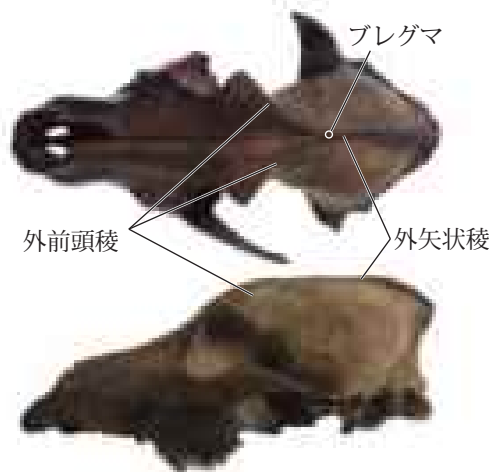
図1 イヌ頭蓋骨・下顎骨各部分の名称と歯牙の略号

(2) 対象資料の概要と記載の方法

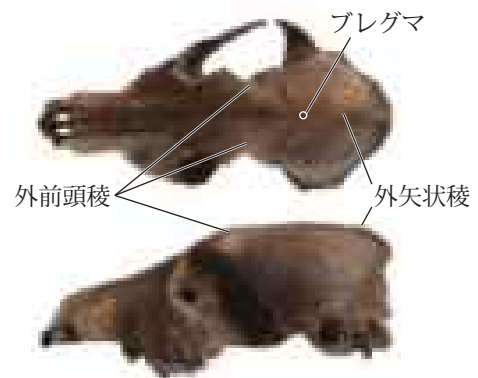
分析の対象とした頭蓋骨・下顎骨資料の基礎情報を一覧として表15に示す。8次調査で出土した2個体分の資料（鳥取県埋蔵文化財センター編2008、門脇2020）以外は1次調査で出土したものである。なお、対象資料のうち頭蓋骨と下顎骨が同一個体と判別できるものは個体ごとにまとめており、その他の部位を伴っているものはその旨を備考欄に記載している。

基本的に頭蓋骨・下顎骨の部分の名称は加藤1957、歯牙の名称と略号については後藤・大泰司1998によった。ただし、「脳頭蓋部」、「顔面部」、「口蓋部」の呼称は加藤前掲を参考にしながら、表の記載や論を進めるにあたって便宜的に設定したものである（図1）。

なお、用途や形質について論じるうえで雌雄の別は重要であると思われるため、長谷部1952を参考とし可能な限り性判別を行うこととした。具体的には頭蓋骨の左右外前頭稜がブレグマ（冠状縫合と矢状縫合の交点）付近あるいはその前方で合し、外矢状稜が発達するものを雄、左右の外矢状稜がブレグマ付近より後方で合すか合流が明瞭でなく、外矢状稜の発達が弱いものを雌としている（写真1）²⁾。下顎骨は、性判別ができた頭蓋骨と同一個体のもののみ雌雄の別を記載した。



♂(KJB17848-2) II期、老獣、中小級



♀(KJA30365) 若獣、小級

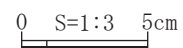


写真1 頭蓋骨による雌雄の判別

3 出土状況の精査

(1) 時期別・地区別出土状況

時期別・地区別出土状況の精査にあたっては、イヌの頭数の多寡だけでなく、用途についても検討できるよう、主要な狩猟対象獣であったとみられるシカ・イノシシとの比較も行うこととする。

時期別出土状況として、Ⅰ期（弥生時代前期後葉～中期前葉）、Ⅱ期（弥生時代中期中葉～後期前葉）、Ⅲ期（弥生時代後期～古墳時代前期初頭）、Ⅳ期（古墳時代）の大別時期³⁾ごとのイヌの同定破片数・最小個体数とその割合を、県道調査区出土シカ・イノシシの同定破片数（井上・松本 2002）と併せて表3に示した。なお、シカの算定には、イヌ・イノシシにない部位で、また骨角器素材としての持込みも想定される（山崎 2008）鹿角は除外している。

まず、イヌについてみると、同定破片数・最小個体数いずれにおいてもⅡ期に大きく増加し、Ⅳ期に至り減少していることが分かる。内山幸子は弥生時代中期以降、青谷上寺地遺跡のほか原の辻遺跡、朝日遺跡、亀井遺跡のように、犬骨が多数出土し獣骨に占める割合も高い特異な状況の遺跡が認められるようになることを指

摘している（内山 2009）。犬骨の出土量がイヌの頭数をどの程度反映しているかは、利用のされ方や死後の処理方法も含めた検討も必要となると思われるが、上記の遺跡がいずれも各地域における拠点的な集落であることから、人間活動の濃密さが多数の犬骨が出土する背景となっていることが窺える。したがって青谷上寺地遺跡のⅣ期における犬骨出土量の減少は、当該期における遺構数の減少と同様、集落の衰退と軌を一にするものと捉えることができよう。

これに対し、シカ・イノシシはⅣ期の出土量が明らかでないものの、Ⅰ～Ⅲ期の出土状況は必ずしもイヌと相関せず、特にシカは時期別の出土量に大きな変化がなくⅠ期においても盛んに狩猟されていたことが見て取れる。このような時期別出土状況の差異を踏まえると、Ⅱ期に至って犬骨の出土量が増加する背景として狩猟の活発化を想定することは難しく⁴⁾、これについては別の要因を考える必要があると思われる。

次に、Ⅱ期・Ⅲ期におけるイヌ頭蓋骨・下顎骨の地区別出土状況をシカ・イノシシ上腕骨（井上・江田 2011）と併せて検討する（図2）。シカ・イノシシについて上腕骨を対象としたのは、骨角器素材としての利用の影響を排除し、食物残渣としての分布状況を捉えるためである。

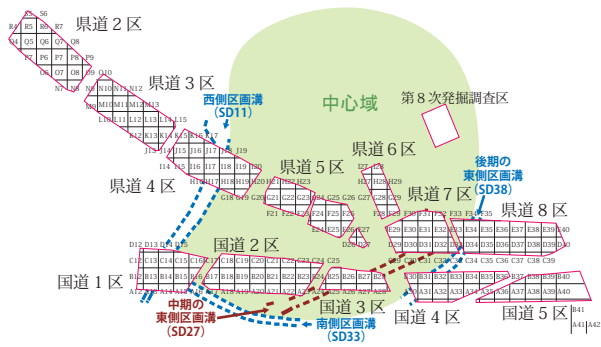
Ⅱ期のイヌ頭蓋骨・下顎骨の分布傾向として、イノシシ上腕骨と共通する県道7区での集中が認められる一方、シカ・イノシシ上腕骨の分布が希薄な国道2区、全くない国道4区に多く分布していることが分かる。このような分布状況からは、当該期にシカ・イノシシの食物残渣とは異なる方法でイヌの遺体が処理される場合があったことが窺える。イヌ頭蓋骨・下顎骨の集中する国道2区のB19グリッドには、イヌの埋葬例として報告（井上・松本 2001）されたSK196が位置している点もこれを示唆するものといえよう。

続くⅢ期ではイヌ頭蓋骨・下顎骨とシカ・イノシシ上腕骨の分布が概ね共通する一方で県

表3 イヌ・シカ・イノシシの時期別出土状況

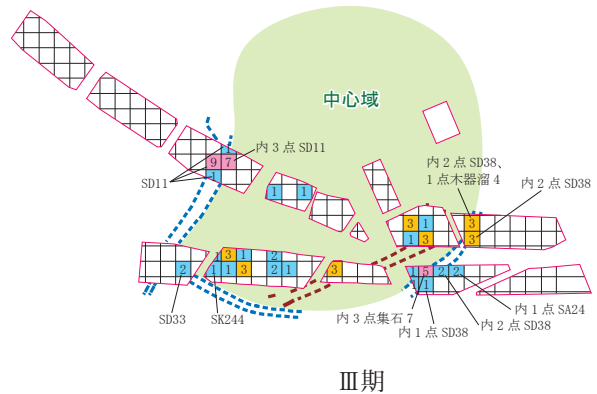
	イヌ			シカ 同定破片数 (割合) ※鹿角除く	イノシシ 同定破片数 (割合)
	同定破片数 (割合)				
	頭蓋骨	下顎骨 (左)	下顎骨 (右)		
	最小個体数 (割合)				
Ⅰ期	15 (6.9%)			190 (22.4%)	143 (14.5%)
	3	6	6		
	6 (6.8%)				
Ⅱ期	83 (38.1%)			180 (21.3%)	195 (19.7%)
	28	24	31		
	31 (35.2%)				
Ⅲ期	70 (32.1%)			213 (25.1%)	295 (29.8%)
	17	24	29		
	29 (33.0%)				
Ⅳ期	6 (2.7%)			-	-
	0	2	4		
	4 (4.5%)				
その他 不明	44 (20.2%)			264 (31.2%)	356 (36.0%)
	11	15	18		
	18 (20.5%)				
計	218			847	989
	59	71	88		
	88				

調査区・グリッド配置

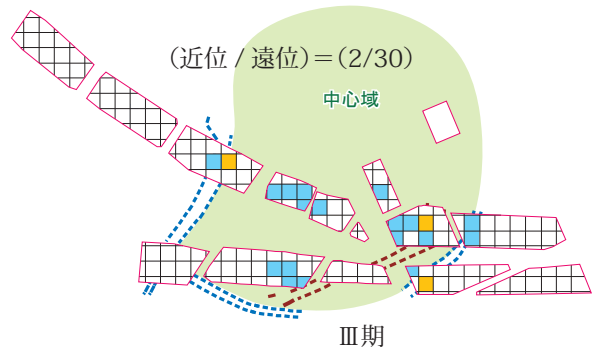
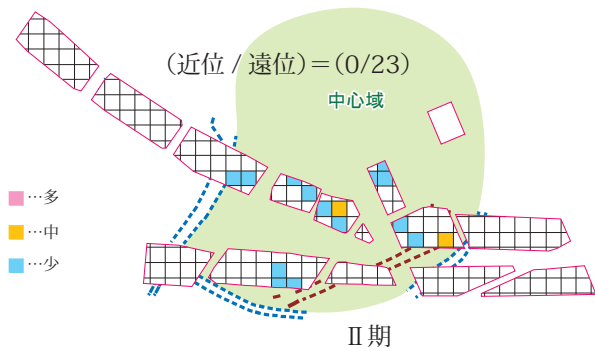


大別時期	遺構	頭蓋骨		備考
		左	右	
Ⅱ期	SK192		1	既報告埋葬犬
	SK196	2	1	
	SK201		1	
	SD53		1	
Ⅲ期	木器溜 3	1		祭祀と思われる出土状況の頭蓋骨あり
	SK244	1		
	SD11	3	5	
	SD33		1	
	SD38	2	1	
	SD38-2		1	
	SD38-3		1	
	SA24		1	
	集石 7	1	1	
木器溜 4	1			

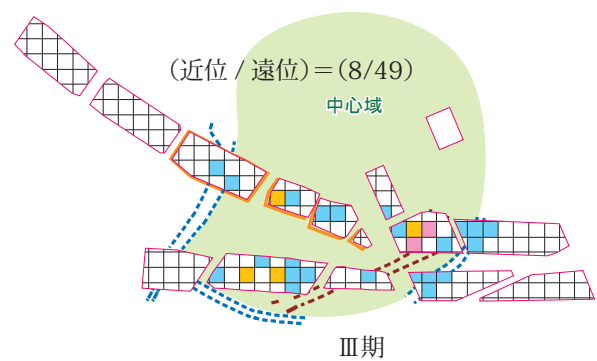
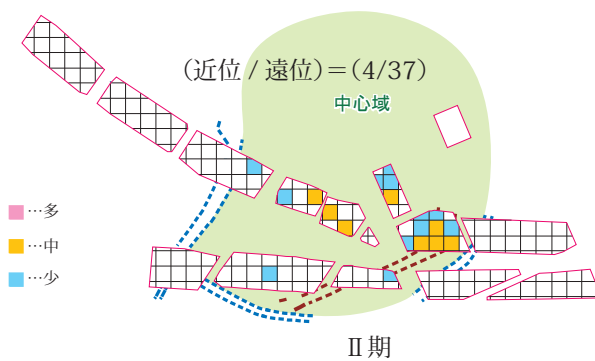
イヌ頭蓋骨・下顎骨



シカ上腕骨



イノシシ上腕骨



※シカ・イノシシ上腕骨の分布は井上・江田 2011 より作成
第 8 次発掘調査区はイヌの分布のみを示した

0 S=1:5000 100m

図 2 イヌ頭蓋骨・下顎骨とシカ・イノシシ上腕骨の地区別出土状況

道4区において、中心域の西側区画溝であるSD11からイヌ頭蓋骨・下顎骨が多数出土していることが注目される。SD11では祭祀の痕跡と思われる状況でイヌ頭蓋骨とサルの頭蓋骨が近接して出土しており（鳥取県教育文化財団編2002）、このような頭蓋骨を供する祭祀が分布状況に影響している可能性が考えられる。

このように、Ⅱ期・Ⅲ期におけるイヌの頭蓋骨・下顎骨の分布状況にはシカ・イノシシの上腕骨と共通する部分が多い一方で、明瞭な差異が認められる箇所もあることが確認された。後者は、一部のイヌ遺体が食物残渣とは異なる処理をされたため生じたとみられ、その背景としてイヌが特殊な扱いをされる場合があったことが想定される。

(2) 既報告資料の詳細

さらに、イヌの扱いについて考える一助とするため、これまで出土状況が報告されている犬骨について検討する。

国道2区のSK196（図3）から弥生時代中期中葉～後葉の甕形土器を伴って出土した2個体のイヌ（井上・松本2001）は、弥生時代に

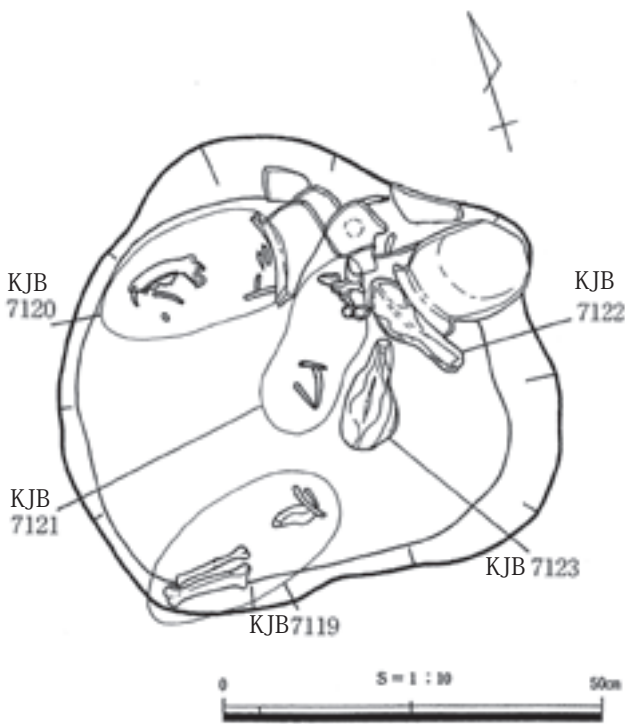


図3 国道2区 SK196

における数少ない埋葬例と認識されている（内山2009）⁵⁾。2個体の多くの部位の欠失は、後世の遺構あるいは他の小動物による攪乱と解釈されており、事実、四肢骨には肉食獣によるとみられる骨端部の齧り取りが認められる。しかし、筆者による検討の結果、頭蓋骨 KJB7122 と同一個体の左下顎骨および左橈骨（いずれも KJB7142）には肉を削ぎ取る際に生じたとみられる解体痕が確認されており（図5-14・15）、少なくとも1個体は解体された状態であったとみられることから、骨格の一部のみが土坑内に埋められた可能性も考えられる。したがって、2個体のイヌは埋葬されたものでなく、祭祀に供されたとみる方が妥当であろう。

国道4区、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の集石7では、礫の下からシカ・イノシシをはじめとする獣骨の集積が検出されている。そこからは環椎を伴う同一個体のイヌの頭蓋骨と左右下顎骨（いずれも KJB18549）、犬歯 KJB18591-4 が出土している。遺構の性格は「骨の廃棄場的な色彩をもっていたのではないか」（井上・松本2001）とされているが、特異な出土状況であることが留意される。

8次調査区の8層（褐灰色有機質シルト層、弥生時代中期後葉）からは2個体のイヌが出土している（鳥取県埋蔵文化財センター編2008）。これらのイヌは、湿地状の環境下で堆積した8層において自然木なども含む雑多な遺物が折重なるなかで検出されており、祭祀に供されたものとは思われない。また、出土部位の検討からは、一部に解剖学的位置が保持されながらも、1個体（1号犬）は前肢を欠いた状況で、もう1個体（2号犬）は頭部から頸椎のみが出土していることが明らかとなり、2号犬の頭蓋骨に確認された解体痕も含め、解体されたイヌが遺棄されたものと推定される（門脇2020）。

前述のように、1次調査ではイヌの複数部位がまとまって取り上げられている資料が取上単位で37点あるが、サンプリングエラーを考慮しても本来は全身骨格が揃っていた可能性があ

るものが少ないこと、複数個体の部位が含まれているものもあることから、8次調査で出土したイヌと同様、解体されたのち遺棄されたものが大部分と考えられる。

このような検討結果から、当遺跡のイヌには確実に埋葬されたものはなく、一部に祭祀に供された可能性がある特殊な出土状況を呈するものがある他は、解体された骨格の一部のみあるいは各部位が散乱した状態で出土していることが分かる。

4 解体痕の観察

(1) 時期別・部位別出現率

次に、イヌが資源としてどのように利用されたかを推定するため、解体痕の検討を行うこととする。解体痕の出現率について、頭蓋骨・下顎骨の全資料を対象とし時期別に示したのが表4、遺構外より単独出土した主要四肢骨を対象とし一括して示したのが表5である。なお、単独出土の資料には表5に示した部位以外に解体痕は認められなかった。

解体痕は解体によって必ずしも生じるものでなく、鳥浜貝塚出土の縄文時代前期に属す獣骨を対象とした研究においても出現率は獣骨全体の4%で、出現率の高いシカの脛骨・上腕骨、イノシシの寛骨・距骨・踵骨でも15%を超える程度との結果が示されている（本郷1991）。

表4 頭蓋骨・下顎骨における時期別解体痕出現率

	頭蓋骨	下顎骨				
	脳頭蓋部	下顎体 頰側	下顎体 舌側	下顎体 頰舌側	下顎枝	下顎骨計
I期	1(33.3%)	2(16.7%)		2(16.7%)	1(8.3%)	5(41.7%)
II期	3(10.7%)	2(3.6%)	3(5.4%)		1(1.8%)	6(10.9%)
III期		5(9.4%)	1(1.9%)	3(5.7%)	1(1.9%)	10(18.9%)
IV期					1(16.7%)	1(16.7%)
その他 不明	1(9.1%)	4(12.1%)	2(6.0%)			6(18.2%)
合計	5(8.5%)	13(8.2%)	6(3.8%)	5(3.1%)	4(2.5%)	28(17.6%)

※母数は表3参照

表5 主要四肢骨（遺構外単独出土）における解体痕出現率

	肩甲骨	上腕骨			桡骨			尺骨			寛骨	大腿骨			脛骨		
		近位	骨幹	遠位	近位	骨幹	遠位	近位	骨幹	遠位		近位	骨幹	遠位	近位	骨幹	遠位
解体痕あり	0	2	2	0	0	2	0	2	3	0	4	2	4	0	3	6	0
資料数	7	13	25	24	21	23	15	24	20	8	30	25	33	22	31	36	33
割合	0.0%	15.4%	8.0%	0.0%	0.0%	8.7%	0.0%	0.83%	15.0%	0.0%	13.3%	8.0%	12.1%	0.0%	9.7%	16.7%	0.0%

青谷上寺地遺跡出土犬骨の各部位に見られる解体痕は線状のものが大部分であることから解体には鋭利な金属器が用いられたとみられる。したがって、石器よりも解体痕が生じ易かった可能性も考慮しなければならないが、その出現率の高さは大部分のイヌが解体されていたことを示すもので、出土状況の検討結果と符合する。

(2) 頭蓋骨・下顎骨に残された解体痕

さらに、出現率に加え、これらの位置と方向を含めた検討を行う。確認された解体痕をイヌ全身骨格において模式的に示したものが図4、各部位ごとに代表的なものを実測したものが図5である。なお、図5-14・15はこれまで埋葬犬とされてきたSK196出土犬骨である。

頭蓋骨・下顎骨全体としては解体痕の出現率は頭蓋骨が8.5%、下顎骨が17.6%となる。点数が多く破損が軽微な下顎骨には、大別時期いづれにも解体痕がみられ、弥生時代を通じて当遺跡ではイヌが解体されていたことが分かる。特にI期における高い出現率は、集落の成立期からイヌに対する扱いが変わらないことを示すものとして特筆されよう。

頭蓋骨で確認されている解体痕の多くは前頭骨・頭頂骨・側頭骨といった脳頭蓋部に体軸に対し斜めあるいは縦方向で残されたものである（図5-1～3）。肉の少ない頭蓋骨に残されたこれらの解体痕は毛皮の剥ぎ取りによって生じたとみられる。眼窩よりも後位に解体痕が集中するのは、この部分で顔面部の毛皮を切り離し利用しなかったためと思われる⁶⁾。高い頻度で解体痕が確認されている下顎骨には、これらに対応するとみられる下顎体の頰側に縦方向あるいは斜方向に残された解体痕が複数確認されている（図5-4～8）。これらの解体痕からは、イヌが毛皮資源として盛んに利用されたことが分

かる。

下顎骨には毛皮の剥ぎ取りに伴う解体痕の他に、下顎骨を頭蓋骨と切り離す際に生じたとみられる下顎枝の咬筋窩付近に横方向に残されたもの(図5-9)や、歯肉を削ぎ取る際に生じたとみられる下顎体の舌側に斜方向あるいは縦方向に残されたもの(図5-7・8)や面的な削ぎ取りが重複するもの(図5-14)がある。このような解体の意図は不明であるが、先述した祭祀の痕跡と思われる出土状況も含めて考えれば、祭祀に頭蓋骨を単体で供するため、あるいは肉を削ぎ落した状態の下顎骨を供することを意図していた可能性は指摘できよう。

(3) 主要四肢骨に残された解体痕

主要四肢骨のうち出現率の高い部位として、上腕骨近位(15.4%)、尺骨骨幹(15.0%)、寛骨(13.3%)、大腿骨骨幹(12.1%)、脛骨骨幹(16.7%)が挙げられる。このうち寛骨に見られる解体痕は図5-10のようにいずれも寛骨臼周辺に残されたものであり、図5-11のような大腿骨頭周辺に残された解体痕と同様、後肢の切り離しによるものとみられる。これに対して前肢は、8次調査1号犬の出土状況から肩甲骨の内側に刃物をいれて切り離す方法がとられたと想定される(門脇2020)ものの、肩甲骨に解体痕が認められるものはない。これは、肩甲骨で体幹部に張り付いているだけの前肢の切り

離しが後肢に比べ容易であり、解体痕が生じにくかったためではないだろうか。なお肩部と上腕部の切り離しは行われることがあったようで、上腕骨近位の骨頭に解体痕が残されたものが2点ある。

これ以外の四肢骨の解体痕には、関節部の切り離しによるとみられるものは少なく、骨幹部の長軸に直交するように残されているものが目立つ。特に橈骨(図5-13・15)や尺骨、脛骨(図5-12)といった前腕部・下腿部の骨幹には同方向で細かく連続する解体痕が残されているものが複数認められる。これらの解体痕は骨から肉を切り離す際に生じたものと考えられる。当遺跡においては、イヌの骨を素材とした骨角器が認められないことからみて、これら四肢骨に残された解体痕は、やはりイヌを食用とした際に生じたものとみて間違いなからう。SK196から出土したイヌについても、橈骨にみられる解体痕から食用とされたのち祭祀に供された可能性も考えられる。

(4) 孔のあいた下顎骨

この他、解体痕ではないが、左下顎骨の咬筋窩部分に人為的になされた可能性のある孔がみついているものがある(写真2)。青谷上寺地遺跡ではこれまで、同様の位置に穿孔がある下顎骨としてイノシシ15点、アナグマ1点⁷⁾が、南方済生会遺跡(扇崎・安川1995)のイノシ

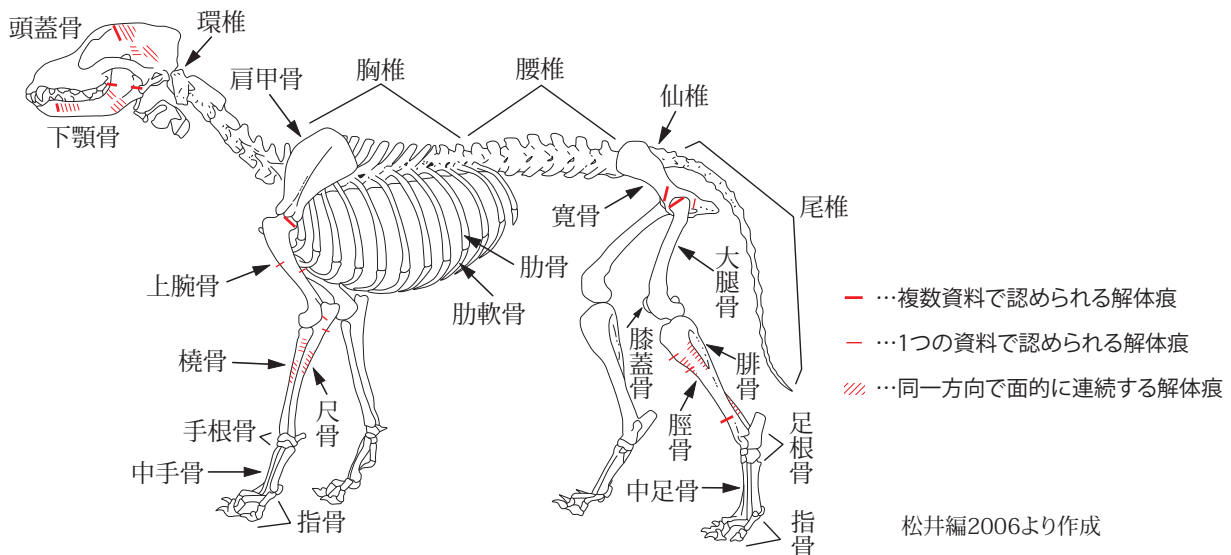


図4 イヌ全身骨格における解体痕模式図

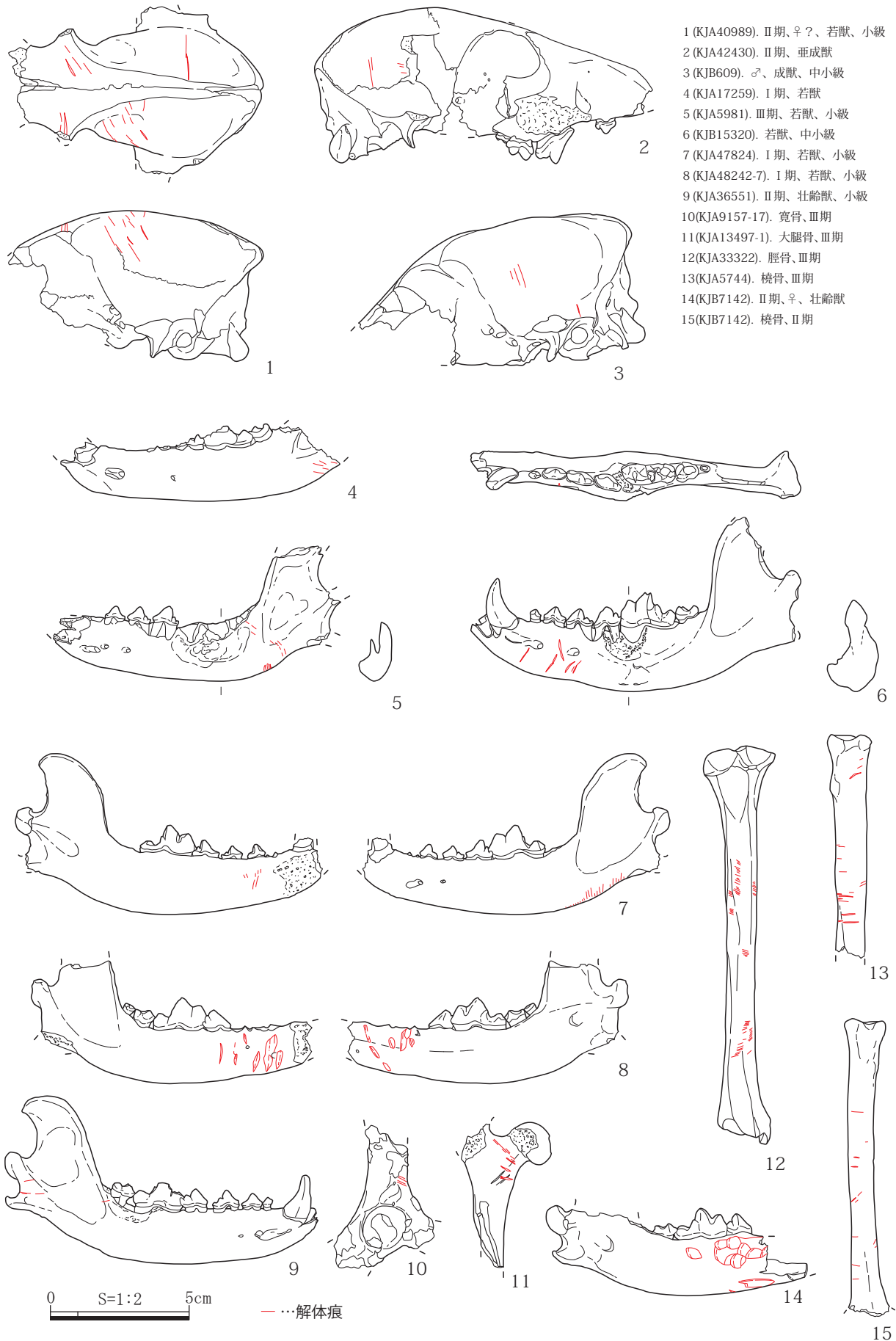


図5 各部位に残された解体痕



写真2 孔のあいた下顎骨

シ類下顎骨配列と関連づけ、「犠牲獣」として報告されている（鳥取県埋蔵文化財センター編 2010）。このような孔のあいたイヌ下顎骨の事例として、亀井遺跡の弥生時代後期初頭に属するものが報告されている（金子 1982）ほか、原の辻遺跡の報告書の写真図版（茂原・松井前掲）に類似するものが確認できる。左下顎骨写真2は同一個体とみられる他部位を伴って出土しているため、「犠牲獣」として報告されたものと同様のものとするには慎重にならざるを得ないが、イヌ下顎骨が祭祀に供された可能性を示すものとして提示しておきたい。

5 病変・骨折痕の観察

(1) 時期別・部位別出現率

頭蓋骨・下顎骨において病変・骨折痕とみられる骨の変形の出現率を表6に示す。病変は下顎骨に多く認められ、そのほとんどは歯槽膿漏である。これに対し、骨折痕は下顎骨に確実なものが1点、可能性があるものが2点あるのみで少ない。解体痕を検討した単独出土の各部位

表6 頭蓋骨・下顎骨における病変の出現率

	頭蓋骨		下顎骨		
	歯槽膿漏	その他	骨折痕	歯槽膿漏	その他
I期					1(8.3%)
II期	1(3.6%)	2(7.1%)	1?(1.8%)	7(12.7%)	
III期			1?(1.9%)	3(5.7%)	
IV期					
その他			1(3.0%)	1(3.0%)	
不明					
合計	1(1.7%)	2(3.4%)	1(0.6%)	11(6.9%)	1(0.6%)

※母数は表3参照

においても骨折痕は後述する脛骨に1点認められるのみであり、骨折率の低さは他の弥生犬と共通している。縄文犬は他の時代と比べ骨折痕が圧倒的に多く（内山 2014）、埋葬犬の1割以上に何らかの怪我の痕跡が認められる（西本 2008）ともされている。縄文犬の骨折痕が狩猟時の怪我との見解が主流であることを踏まえれば、当遺跡出土犬骨の骨折率の低さからは、猟犬としての使役が低調であったことが考えられよう。

以下、写真3に示した代表的な資料について記載する。

(2) 骨折痕

既報告の左下顎骨写真3-1に認められる骨折痕は下顎体中央部が歪むほどの変形であり、「イノシシなどの動物と戦った時に生じたものかも知れない」と推定されている（井上・松本 2002）ように、猟犬として使役された際の負傷がもととなっている可能性がある。その他下顎骨では写真3-2の下顎底に生じた凹みや、写真3-6の下顎底に認められる瘤状の膨らみが骨折痕の可能性のあるものとして挙げられる。左脛骨写真3-3は骨折によって骨幹部が歪み、遠位から骨幹部が腓骨と癒合する程変形している。特に写真3-1・3の顕著な変形は野生動物では生存が困難なほどの骨折によるものと思われるが、最終的にそれが治癒していることから人間の保護下にあった個体の可能性が高い。ただし、写真3-1には毛皮の剥ぎ取りによるとみられる解体痕が残されており（図5-6）、猟犬として使役され人間の保護下にあった可能性が高いイヌであっても最終的には解体され資源として利用されていたことを示す資料として特筆される。

(3) 歯槽膿漏

下顎骨に認められる歯槽膿漏の代表的なものを写真3-1・4～7に示す。写真3-4は、第2大白歯付近から下顎枝におよぶ大きな欠損が生じており、写真3-5・7も歯槽部を中心として下顎体が歪むほどの大きな変形が認め

られ、歯槽膿漏が骨体に及ぼす影響の大きさを示している。これらの資料については、現代犬の歯槽膿漏の原因となっている歯石の沈着が認められないこと、骨の変形が大きいことから外傷性的ものと推定されている（井上・松本 2002、井上 2006）。しかしながら、外傷が要因で歯槽膿漏となることは希であり⁸⁾、現代犬の例ではあるが非外傷性的歯槽膿漏でこれ以上の変形が骨に生じている事例も存在する（Whyte ほか 2012）。写真 3-6 を含む 7 点の下顎骨に認められる歯槽膿漏は、歯根が僅かに露出する程度の変形であるが、いずれも第 1 大白歯付近で認められる点は大きな変形を生じているものと共通しており、歯槽膿漏が同一の要因で生じている可能性が考えられる。歯槽膿漏は家畜化の指標のひとつとされており（西本 1999）、出土資料に認められる歯槽膿漏も野生動物とは異なる生活環境によって生じたとみる

のが妥当と思われる。これらの下顎骨は青谷上寺地遺跡のイヌの生活が人間と密接であったことを示すものといえよう。ただし、写真 3-7 の下顎骨には頬側にやはり毛皮の剥ぎ取りによるとみられる解体痕が残されており（図 5-5）、イヌが人間との密接度に関わりなく最終的には解体されていたことが窺える。

(4) その他

写真 3-8 舌側の下顎底付近や、図 5-2 に示した頭蓋骨の右上顎骨側面には骨質部表面の荒れが生じており、何らかの病変と考えられる。

6 歯牙の観察

(1) 記載の方法

歯牙の観察は、欠歯の有無と永久歯の萌出段階、各歯牙の咬耗状況を主眼として行い、同一個体のもは表 16 に、単独出土の頭蓋骨は表 17 に、単独出土の下顎骨は表 18 にその結果

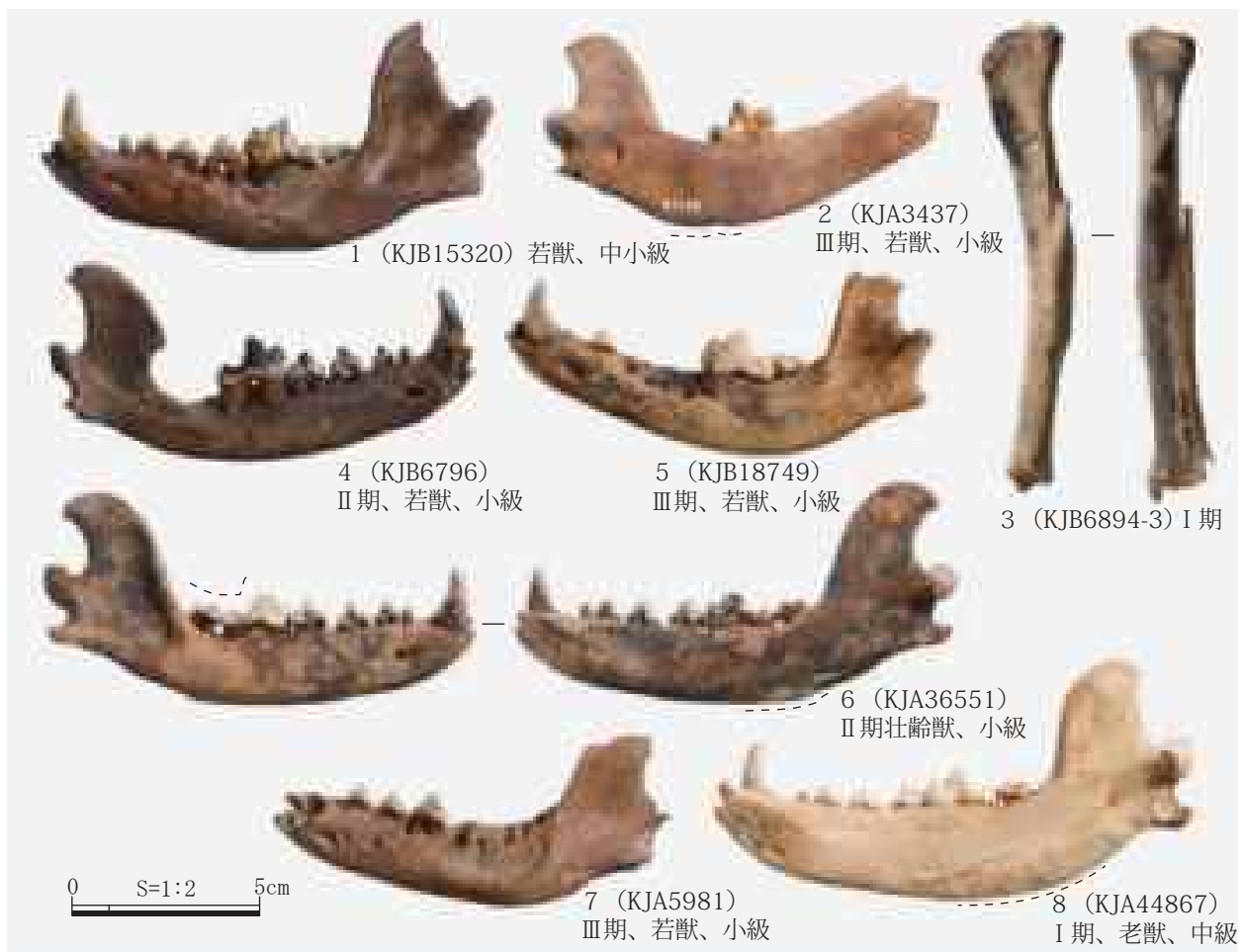


写真3 骨折痕・病変

を記載した。

欠歯は本来歯が釘植していた（あるいはするはずの）箇所歯槽が閉塞しているものである。そのうち、永久歯が釘植していた痕跡が認められるものを後天的欠歯とし「☒」で、認められないものを先天的欠歯とし「□」で記載した。ただし、後天的欠歯が早い段階で生じた場合、釘植の痕跡が完全に失われてしまうことも想定されるため、この区分は確実なものではない。これに対し、死亡後に抜け落ちたり（歯槽が開いている）、破損した歯は「×」で記載した。歯槽が破損している場合は、[]で残存箇所を示した。

残存している歯牙の萌出・咬耗状況は、萌出が完了していないものを「a」、萌出が完了しているが咬耗が認められないものを「b」、歯冠部の鋭さが失われる程度の軽度の咬耗が認められるものを「c」、咬耗の進行により歯冠部本来の形状が損なわれたり象牙質が露出しているものを「d」とした。

(2) ダメージの多寡

縄文犬は欠歯をはじめとする歯牙のダメージが顕著であるといわれており、猟犬として使役

された傍証とされることもある（小宮・戸村 1997 など）。これを踏まえ、特に猟犬としての使役の程度を推定するため、歯牙について詳細な情報が報告されている田柄貝塚、勒島遺跡との比較を行いながら歯牙のダメージを検討する。

青谷上寺地遺跡出土犬骨の各歯牙における欠歯率を勒島埋葬犬 20 個体、田柄貝塚埋葬犬 18 個体、現生雑種成犬の先天的欠歯（小方ほか 1979）のものとして併せて表 7 に示した。青谷上寺地遺跡出土資料と勒島埋葬犬の欠歯率は後天的欠歯のみで、田柄貝塚埋葬犬は先天的・後天的の別なく算出した割合である。

まず、田柄貝塚埋葬犬の欠歯率は現生雑種犬の先天的欠歯と比較してかなり高く、欠歯の大部分が後天的な要因によるものと推測でき、3 遺跡のなかで欠歯率の高さは際立っていることが分かる。これに対し、面積の狭い島という立地から「猟犬の役割は現状では考えられない」（宮崎 2008）とされている勒島埋葬犬の欠歯率は 3 遺跡で最も低く、猟犬としての使役と歯牙のダメージの相関を窺わせる。

資料全体でみた場合、青谷上寺地遺跡出土犬

表 7 欠歯率の比較

		I1	I2	I3	C	P1	P2	P3	P4	M1	M2	M3	
青谷上寺地	上顎	欠歯	3(1)	1(0)	1(0)	0	4(1)	8(4)	1(0)	0	2(0)	4(0)	-
		本数	44	44	44	56	58	59	68	70	67	60	-
		欠歯率	6.8%	2.3%	2.3%	0.0%	6.9%	13.6%	1.5%	0.0%	3.0%	6.7%	-
	下顎	欠歯	2(1)	0	0	0	25(8)	27(2)	4(0)	7(3)	0	1(0)	9(2)
		本数	79	84	87	117	123	130	132	134	144	132	124
		欠歯率	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	20.3%	20.8%	3.03%	5.2%	0.0%	0.8%	7.3%
勒島埋葬犬	上顎	欠歯	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	-
		本数	11	18	21	21	18	22	25	27	25	25	-
		欠歯率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	4.0%	4.0%	-
	下顎	欠歯	0	0	1 (1)	0	4	3	0	5 (2)	0	0	2 (2)
		本数	14	22	22	24	24	29	29	31	30	29	17
		欠歯率	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	16.7%	10.3%	0.0%	16.1%	0.0%	0.0%	11.8%
田柄貝塚埋葬犬	上顎	欠歯	9	6	7	3	5	4	2	1	1	1	-
		本数	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	-
		欠歯率	25.0%	16.7%	19.4%	8.3%	13.9%	11.1%	5.6%	2.8%	2.8%	2.8%	-
	下顎	欠歯	5	5	5	5	24	11	0	0	0	0	6
		本数	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36
		欠歯率	13.9%	13.9%	13.9%	13.9%	66.7%	30.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
現生雑種 (先天的欠歯)	上顎	欠歯	-	-	-	-	8	9	2	0	0	1	-
		本数	-	-	-	-	336	336	336	336	336	336	-
		欠歯率	-	-	-	-	2.4%	2.7%	0.6%	0.0%	0.0%	0.3%	-
	下顎	欠歯	-	-	-	-	8	9	4	1	0	4	5
		本数	-	-	-	-	136	136	136	136	136	136	136
		欠歯率	-	-	-	-	5.9%	6.6%	2.9%	0.7%	0.0%	2.9%	3.7%

※ 青谷上寺地・勒島埋葬犬の欠歯は、後天的欠歯数（先天的欠歯数）で記載し、欠歯率は後天的欠歯のみで算出

骨の欠歯率は田柄貝塚埋葬犬と比べ明らかに低く、獵犬としての使役は縄文時代よりは低調であったと考えられる。しかし、当遺跡から出土している多量かつ多様な獣骨から想定される活発な狩猟活動を考えれば、出土犬骨のなかに突出して歯牙のダメージが顕著なものが含まれていることは看過できない。写真4、表8・9に示した下顎骨と頭蓋骨はいずれも、破折したのちに咬耗している歯牙が確認されており、生前に歯牙に大きなダメージを受けたと判断できるものである。これらはいずれも老獣で、長い生

存期間中に歯牙にダメージを負う機会は多かったと思われるが、獲物を突き刺す犬歯が生前に破折していることが特筆される。同様の犬歯の欠損は、下顎骨で6点確認される。さらに下顎骨写真4-1・2は第1大臼歯を含む複数の臼歯が破折し、頭蓋骨写真4-3は右第1・第2大臼歯を失っている。これらの顕著な歯のダメージを負った個体からは、イヌ全体としては少数ではあるものの獵犬として使役されるものがあつたことが窺える。伝香川県出土銅鐸や泊銅鐸に描かれた獵犬は確かに弥生犬のあり方の



写真4 歯のダメージが顕著な頭蓋骨・下顎骨

表8 下顎骨 (KJA5889-1・KJB7025-2) 歯の観察表 (表16・18より抜粋)

取上番号 左右	歯の萌出と咬耗状況											推定年齢 備考
	I1	I2	I3	C	P1	P2	P3	P4	M1	M2	M3	
KJA5889-1 左	d	d	d	d	×	d	d	c-d	d	d	×	C・P ₃ ・M ₁ ・M ₂ 破折後咬耗
	×	×	×	d	d	☒	d	d	d	d	☒	
KJB7025-2 右	I1	I2	I3	C	P1	P2	P3	P4	M1	M2	M3	老獣 C・M ₁ ・M ₂ 破折後咬耗
	×	×	×	d	d	☒	d	d	d	d	☒	

表9 頭蓋骨 (KJA4355) 歯の観察表 (表17より抜粋)

取上番号	歯の萌出と咬耗状況														推定年齢 備考						
	右							左													
KJA4355	M2	M1	P4	P3	P2	P1	C	I3	I2	I1	I1	I2	I3	C	P1	P2	P3	P4	M1	M2	老獣 右C破折後咬耗
	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	d	☒	d	d	×	×	×	d	d	☒	



写真5 亜成獣・幼獣

一端を表現したものといえるのだろう。

(3) 死亡年齢の傾向

哺乳類の歯牙は、乳歯が成長期に抜け永久歯に1回だけ生え変わる二生歯性であり、その時期は動物種ごとに定まっているため、Cornwall1956に示されている萌出段階(図6)を年齢推定に用いることができる。また、今泉1887によればイヌの永久歯の咬耗の進行は、下顎切歯中央側→下顎切歯外側→上顎切歯→切歯以外の歯牙へと進行するとされており(図

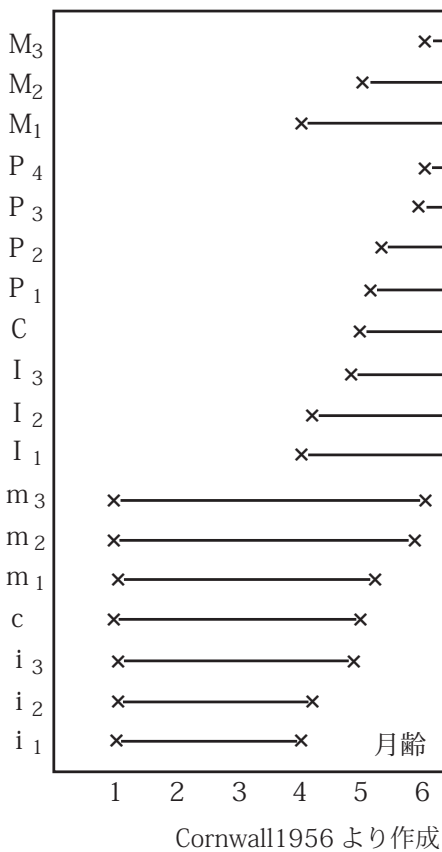


図6 イヌ歯牙の萌出段階

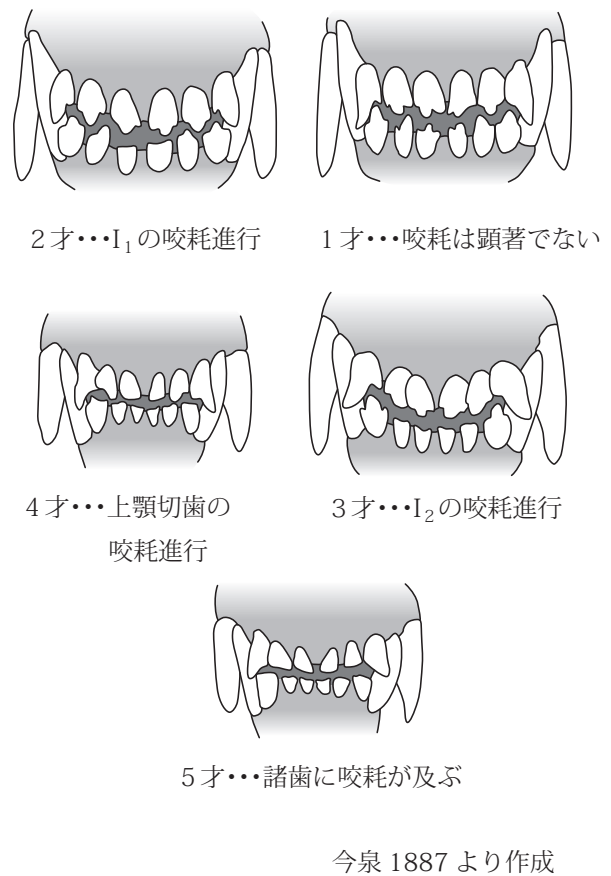


図7 年齢と歯の咬耗

表10 年齢区分別の点数及び割合(青谷上寺地遺跡出土犬骨時期別、勸島埋葬犬)

	幼獣		亜成獣		若獣		壮齢獣		老獣		成獣		不明		合計
I期	1	6.7%	0	0.0%	7	46.6%	1	6.7%	5	33.3%	1	6.7%	0	0.0%	15
II期	3	5.2%	4	6.9%	28	48.2%	7	12.0%	9	15.5%	3	5.2%	4	6.9%	58
III期	4	7.0%	1	1.8%	26	45.6%	3	5.3%	10	17.5%	10	17.5%	3	5.3%	57
IV期	0	0.0%	0	0.0%	3	60.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	40.0%	0	0.0%	5
その他不明	3	8.3%	1	2.8%	17	47.2%	4	11.1%	4	11.1%	5	13.9%	2	5.6%	36
合計	11	6.4%	7	3.5%	81	47.3%	15	8.8%	28	16.3%	21	12.2%	9	5.3%	171
勸島	3	13.6%	2	9.1%	11	50.0%	1	4.5%	5	22.7%	0	0.0%	0	0.0%	22

7)、出土資料でもこの有効性が確認できる。

ただし、萌出段階による方法で推定できるのは永久歯の萌出が完了する生後6か月までであり、切歯の咬耗による推定は出土犬骨ではこれらが脱落していることが多いため、具体的な年齢を推定できる資料は限られる。そこで本稿では、永久歯の萌出が完了するまでを「幼獣」(写真5-2)、永久歯の萌出は完了しているが成長途上であることが明らかなものを「亜成獣」(写真5-1)、切歯以外の歯牙の咬耗が進行していないものを「若獣」、残存している切歯以外の歯牙のうち咬耗が進行しているものが半数に満たないものを「壮齢獣」、過半数が咬耗しているものを「老獣」として扱うこととする。このほか永久歯の萌出が完了している以外、脱落などで歯牙の咬耗の情報が得られないものは一括して「成獣」とする。便宜的に設定したこの区分に基づいて出土頭蓋骨・下顎骨を分類し表16～18に記載した。なお、具体的な年齢は、Cornwall1956、今泉1887によって推定できるものに限って上記区分と併せて記載した。

青谷上寺地遺跡出土資料の年齢区分別の点数と割合を、歯の咬耗状況が報告され同様の区分が可能な靛島埋葬犬とあわせ表10に示す。青谷上寺地遺跡はいずれの時期においても若獣が最も多く、幼獣と亜成獣は少ないことが分かる。また、出土点数の多いⅡ期・Ⅲ期についてみると老獣はほぼ同程度であることから、死亡年齢に時期的な差異があったとは思われない。若獣の段階で死亡しているイヌが多いことは、青谷上寺地遺跡のイヌに使役されるものが少なかった可能性を示しており、歯牙のダメージ分析の結果と矛盾しない。ただし、靛島埋葬犬にも若獣が多い点や、縄文時代の埋葬犬についての「壮年以上の個体が主体を占めるわけではない」(内山2014)という指摘からは、死亡年齢の低さと、食用あるいは毛皮の利用を結びつけることには現段階では慎重にならざるを得ない。

7 計測値分析

(1) 計測・記載の方法

資料の計測は、他遺跡の資料との比較が可能となるよう、茂原1987に示された計測方法によって行った(図8)。この方法は、本邦において遺跡出土犬骨の計測に広く用いられてきた『犬科動物計測法』(齊藤1963)を整理・明確化したものである。頭蓋骨の計測値を表19、下顎骨の計測値を表20に示す。計測にはデジタルノギスを用い100分の1mm単位で記載し

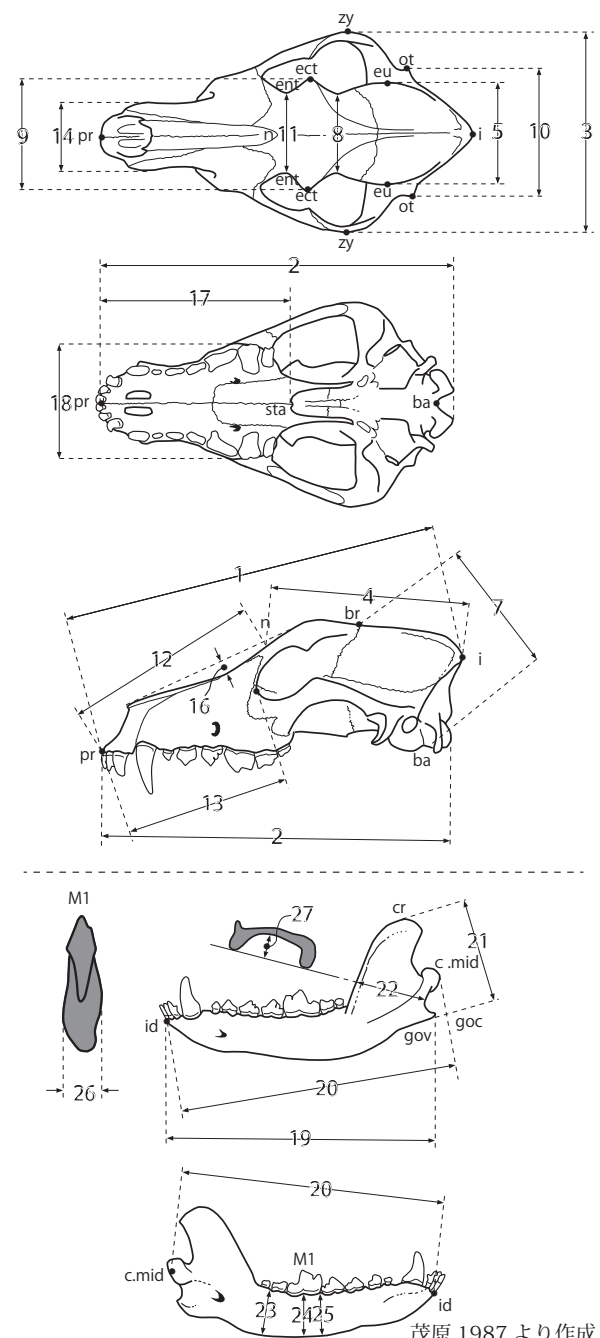


図8 頭蓋骨・下顎骨の計測項目

たが、頭蓋高 (6) (括弧内の数字は図 8 と対応。以下同様) はアナログキャリパーを用いたため mm 単位としている。また、計測箇所欠損が軽微なものや、頬骨弓幅 (3) などで欠損しているものの正中線からの復元が可能な場合の推定復元値も mm 単位の記載とした。

(2) 各計測値の平均と級分類

得られた計測値のうち幼獣と亜成獣を除いて算出した平均値と標準偏差を田柄貝塚埋葬犬、

現生シバイヌとあわせて表 11 に示す。なお、頭骨示数は頬骨弓幅 (3) × 100 / 最大頭蓋長 (1)、顔面示数は顔長 (12) × 100 / 頬骨弓幅 (3)、鼻骨凹陷示数は鼻骨凹陷深 (16) × 100 / 吻高 (17) で算出した頭蓋骨のプロポーシオンを示す値である。青谷上寺地遺跡の資料は雌雄が判別できないものが多く一括して算出しているため、計測値のばらつきが大きく、他と比べ標準偏差が大きい項目が多い。全体的なサイズに関わる頭

表 11 各項目平均値の比較

	青谷上寺地				田柄貝塚♂			田柄貝塚♀			現生シバイヌ♂		現生シバイヌ♀	
	n	変異幅	平均	SD	n	平均	SD	n	平均	SD	平均	SD	平均	SD
1 最大頭蓋長	11	143-169.76	155.36	7.89	8	163.01	4.13	4	152.33	6.97	159.5	7.57	151.0	6.15
2 基底全長	12	124-162.19	146.6	9.58	9	152.44	4.15	4	141.88	3.54	150.6	6.99	142.9	6.18
3 頬骨弓幅	11	80.14-103.55	87.9	7.99	4	88.30	4.25	2	85.15	1.77	94.1	3.79	89.3	3.89
4 脳頭蓋長	16	70.83-94.16	83.47	4.68	7	87.16	1.97	5	82.76	2.90	87.7	4.40	82.4	2.81
5 頭蓋幅	17	46.29-54.22	50.12	1.80	6	52.35	1.94	5	51.62	2.39	49.4	1.96	49.0	1.41
6 頭蓋高	16	40-53	46.00	3.24	7	49.00	2.77	4	44.50	2.52	49.3	3.95	44.7	1.75
7 バジオン・プレグマ高	16	55.7-66.28	61.16	3.04	8	61.98	2.47	4	58.85	2.17	65.0	3.51	61.5	2.14
8 最小前頭幅	20	26.87-35.98	31.50	2.33	7	31.70	1.04	5	30.00	2.44	29.5	2.68	29.8	1.76
9 前頭骨頬骨突起端幅	18	37.44-50.28	42.70	3.70	8	42.83	1.67	5	41.14	2.81	43.08	3.54	41.4	2.83
10 後頭三角幅	21	47.36-63.42	56.31	3.65	7	59.47	2.64	5	57.68	2.18	56.1	2.69	52.8	2.12
11 最小眼窩間幅	17	23.64-33.99	28.94	3.33	8	28.69	0.93	4	27.45	0.87	28.0	3.24	26.9	1.70
12 顔長	13	66.02-84.68	74.88	5.36	8	79.39	2.86	4	74.68	4.84	77.6	3.67	73.7	3.88
13 吻長	15	56-72.85	65.78	4.57	7	68.34	2.18	4	64.58	2.83	66.9	3.60	63.3	3.41
14 吻幅	15	27-37.66	31.08	3.01	6	34.52	1.72	3	30.77	2.66	31.3	1.73	29.5	1.81
15 吻高	14	32-44	35.93	3.33	7	39.14	3.63	4	35.50	3.11	35.5	2.73	31.7	1.98
16 鼻骨凹陷深	12	3.33-7.93	5.19	1.29	8	5.03	0.75	3	3.43	0.57	6.4	0.89	5.8	0.70
17 硬口蓋長	15	70-85.02	75.76	3.90	4	78.45	2.38	3	72.87	2.80	76.5	4.64	74.3	3.71
18 硬口蓋最大幅	14	49.27-62.36	55.52	3.86	8	57.41	2.89	5	53.66	2.52	59.2	1.68	54.7	2.69
19 下顎骨全長 1	45	98-126	110.77	7.52	5	118.48	2.51	4	112.15	4.53	115.8	5.91	110.2	5.98
20 下顎骨全長 2	57	100.66-128.69	112.89	6.91	9	117.41	3.56	5	110.56	4.44	116.9	5.91	110.1	5.84
21 下顎枝高	50	35.31-52.64	43.81	3.53	5	46.68	1.62	5	44.88	2.44	44.7	2.63	41.4	2.82
22 下顎枝幅	70	23.74-34.35	28.27	2.73	8	30.01	1.11	5	27.42	1.73	27.2	1.09	26.1	1.37
24 下顎体高 2	99	15.33-26.79	21.14	1.85	9	22.37	1.23	5	20.90	1.63	19.2	1.33	17.9	1.89
26 下顎体厚	99	7.76-13.54	10.24	1.09	9	10.86	0.60	5	9.96	0.72	9.1	0.61	8.4	1.02
27 咬筋窩深	69	4.44-8.77	6.40	0.99	7	7.14	1.46	5	6.80	0.84	4.9	0.35	4.6	0.54
頭骨示数	8	53.21-61.13	57.42	2.89	4	55.05	3.43	2	58.00	2.02	61.12	5.00	59.14	1.52
顔面示数	9	76.02-95.64	84.73	5.06	5	90.28	7.39	2	83.85	4.82	82.52	3.71	82.46	2.20
鼻骨凹陷示数	12	9.16-19.83	14.34	3.11	7	12.66	2.58	3	9.96	1.05	18.04	1.88	18.36	2.15

※ 平均、変異幅の単位はmm。n：資料数、SD：標準偏差。計測項目の番号は図8と対応している。青谷上寺地遺跡以外のデータは茂原・小野寺 1986 より。

表 12 長谷部 1952 による級分類

	小	中小	中	中大	大
最大頭蓋長	× -155	156-170	171-185	186-200	201- ×
脳頭蓋長	× -83	84-93	94-103	104-113	114- ×
最大頭骨幅	× -54	55-59	60-64	65-69	70- ×
顔長	× -76	77-84	85-92	93-100	101- ×
吻長 (眼窩)	× -64	65-72	73-80	81-88	89- ×
上顎幅	× -52	53-57	58-62	63-67	68- ×
上臼歯列長	× -52	53-57	58-62	63-67	68- ×
下顎骨長 (顆)	× -113	114-124	125-135	136-146	147- ×
下臼歯列長	× -60	61-65	66-70	71-75	76- ×

※ 単位はmm

蓋最大長・下顎全長 1 (19)・下顎全長 2 (20) といった計測箇所では、青谷上寺地遺跡は現生シバイヌ♂より小さく、田柄貝塚♀と近い値とな

る。雌雄を一括して算定していることを考慮すれば、青谷上寺地遺跡のイヌは平均すると田柄貝塚埋葬犬よりやや小さいと判断できる。

表 13 各級の時期別点数

	小				中小				中				不明			
	頭♂	頭♀	頭?	下	頭♂	頭♀	頭?	下	頭♂	頭♀	頭?	下	頭♂	頭♀	頭?	下
I 期	4				2				1				7			
		1		3		1		1				1			1	6
II 期	25				19				0				19			
	1	2	4	19	1	2	3	13					1	1	11	7
III 期	24				8				5				19			
	2	1	2	19	1			7				5	1		8	10
IV 期	0				1				0				4			
								1								4
不明	10				9				1				14			
その他	1	1	2	7	2		2	5				1			3	11
合計	63				39				7				63			
	4	5	8	48	4	3	5	27				7	2	1	23	38

※同一個体の左右下顎骨は 1 と算定



写真 6 下顎骨の級分類

さらに、資料全体のなかにどの程度の大きさの個体がどのような割合で含まれているか検討するため、出土犬骨の大きさを示す指標として広く用いられている長谷部 1952 による級分類（表 12）を行った。頭蓋骨は多くの計測箇所による基準が示されているが、ひとつの資料の分類が一定しない場合もあるため、最大頭蓋長（1）を主としながら、それが得られない資料については複数の計測箇所を参考として分類した。

出土した頭蓋骨・下顎骨のうち、成長途上である幼獣・亜成獣を除いたものの級分類を時期別に示したものが表 13 である。頭蓋骨には雄でありながら小級に分類されるものがあることから、成獣の雄がすべて中小級以上となる田柄貝塚埋葬犬よりも小さい形質のものが含まれていることが確認できる。下顎骨は小級・中小級・中級が含まれる一方、頭蓋骨には中級が含まれない。長谷部 1952 の級分類では、同一個体であっても部位ごとに別の級に分類されることも珍しくなく、頭蓋骨の中小級のうち大きいものが下顎骨の中級に相当するものと考えられる。なお、山内 1958 によれば、復元される体高は頭蓋骨の小級で～42cm、中小級で 42～46cm、下顎骨の小級で～41cm、中小級で 42～45cm、中級で 46～48cm 程度となる。

下顎骨でみると小級・中小級に比べ中級は少なく、1 点がⅠ期に、5 点がⅢ期に属し、同定破片数・最小個体数いずれも最も多いⅡ期に認められない点は特筆される。縄文犬は基本的に雄が中小級・雌が小級となる 1 系統であるともいわれており（西本 1983）、弥生時代になるとみられる中級のイヌについてはこれとは異なる系統のイヌがもたらされたものとの見解がある（内山 2009）。縄文時代後晩期に属す田柄貝塚埋葬犬よりもやや小さいものが主体となる青谷上寺地遺跡のイヌのなかにあって、少数認められる中級のイヌはこれらと隔絶した大きさであり、外部からもたらされた可能性が高い。ただし、それらがⅡ期において認められないこ

とからは、非在地のイヌがもたらされたとしてもそれは断続的であり、また形質として安定する、すなわち在地のイヌが大型化するほどの数ではなかったと推察される。同じ青谷平野に位置する青谷横木遺跡から出土したイヌの頭蓋骨（古代以前）と下顎骨（古代）が、いずれも青谷上寺地遺跡の大部分のイヌと同様に小型である（門脇 2018）ことは、後代のイヌの形質への影響もほとんどなかったことを裏付けるものといえよう。

（3）偏差分析

続いて、各計測項目における計測値の偏りから形質的特徴を把握するため、表 14 に示した他遺跡の資料を含めた偏差分析を行う。分析にあたっては、雄は KJA4355、亀井 1 号犬、勸島 1 号犬、田柄貝塚♂平均、雌は KJA42498、KJB6968-1、亀井 2 号犬、田柄貝塚♀平均を対象とし、現生シバイヌの雌雄別標準偏差（表 11）を基準として偏差折線を作成した（図 9）。なお、勸島 1 号犬は中級に属す雄であり、大小のバラエティーが大きい勸島埋葬犬のなかで弥生犬に近いサイズであるため対象としたものである。

雄ではまず、田柄貝塚♂平均がサイズの違いにより全体的に低い値をとることに加え、偏差折線が他と大きく異なる傾向を示す。頬骨弓幅（3）と頭骨示数の低さ、顔面示数の高さは細長い顔つきであること、鼻骨凹陷深（16）と鼻骨凹陷示数の低さは額段（ストップ）がほとんどないことを示しており、縄文犬の特徴（西本 1999 など）が表れていることが分かる。他の 3 資料は似通った傾向を示す部分もあるが、いくつかの項目において大きな差異が認められる。勸島 1 号犬は、頬骨弓幅（3）、硬口蓋最大幅（18）が突出して高く丸顔の個体であることが示されている。亀井 1 号犬は、頭蓋幅（5）およびバジオン・プレグマ高（7）が低く、脳頭蓋部が小さい個体であることが分かる。KJA4355 は顔長が低いものの、全体的なプロポーションに関わる頭骨示数と顔面示数が

表 14 分析対象とした頭蓋骨の計測値

	時期	性別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
			最大頭蓋長	基底全長	頬骨弓幅	脳頭蓋長	頭蓋幅	頭蓋高	バジオン・プレグマ高	最小前頭幅	突起端幅	前頭骨頬骨	後頭三角幅	最小眼窩間幅	顔長	吻長	吻幅	吻高	鼻骨凹陷深
KJA42498	Ⅱ期	♀	154.15	145*	88*	86.93	51.13	46	56*	29.46	40.50	55.88	28.32	73.80	67.44	28.70	37	3.75	75.98
KJB6968-1	Ⅱ期	♀	143*	136*	79.92	77.74	48.15	40	60.22	32.11	41.58	53.96	26.31	70*	62*	27.90	32	4.17	70*
KJB7122	Ⅱ期	♀	156.83	149.57	89.85	86.07	54.22	48	61.49	34.61	45.82	58.57	32.87	76.73	67.56	32*	38	5.27	75.57
KJB17848-2	Ⅱ期	♂	165.49	157.95	100*	86.41	52.22	53	66.27	32.21	49.96	61.35	33.23	84.68	70.96	35.72	44	6.43	80.65
8次調査2号犬	Ⅱ期	♀	162.67	154.84	91*	92.70	52*	49	64.35	34.52	44.22	62.94	31.00	78.70	70.57	32.23	37	3.39	78.33
KJA4355	Ⅲ期	♂	169.76	162.19	103.55	94.16	51.79	51	66.28	32.88	50.28	63.42	33.99	78.72	71.63	37.66	40	7.93	85.02
KJA30365	弥生中期～後期	♀	147.16	142.22	80.14	84.87	48.46	44	57.40	30.20	38.93	57.39	23.64	66.02	62.62	27.08	32	3.33	72.23
KJA36585	Ⅱ期	♂	150.49	146.42	92	81.16	49.48	47	60.94	26.87	43.93	57.29	28.11	74.06	64.70	31.94	36	5.88	73.72
田柄貝塚3号犬	縄文後晩期	♂	160.8	149.8	92.9	88.7	51	46	60.7	33.1	42.7	57.1	29.3	76.5	66.5	33.4	35	4.7	78.4
田柄貝塚12号犬	縄文後晩期	♀	145.4	137.5	86.4	80.5	51.2	44	56.6	28	38.7	55.5	26.6	69.5	61.6	28	32	2.8	69.8
亀井1号犬	弥生中期後半～後期中頃	♂	175.0	168*	103.0	98.0	48.0	51.5	61.7	32.2	48.6	60.0*	30.8	83.4	74.0	34.4	40.0	-	83.1
亀井2号犬	弥生中期後半～後期中頃	♀	164.2	154.0	93.0	89.5	52.5	47.5	55.0	31.9	44.2	59.6	27.0	80.5	70.9	33.0	40.0	-	79.8
亀井3号犬	弥生中期後半～後期中頃	♀	160.3	151.5	92.0	84.4*	51.1	47.0	57.0	31.3	44.3	59.1	30.2	80.3	69.4	32.0	39.0	-	79.4
原の辻遺跡S7-21B5	弥生中期～後期	♀	157.9	-	87.2	89.4	51.3	47.0	59.7	31.6	42.3	58.0	29.5	76.1	67.5	29.2	35.5	4.6	73.1
朝日遺跡No.164	弥生中期	♀	154.56	141.19	85.68*	83.83	51.29	48.25	59.21	35.44	45.84	54.47	32.12	76.75	65.85	31.93	37.67	-	72.74
靱島1号犬	弥生併行	♂	175.76	168.77	112.29	91.99	53.98	53	66.06	37.02	53.12	66.54	34.95*	89.01	73.14	36.93	44.5	-	86.54

※ 単位はmm。計測項目の番号は図8と対応している。*は推定復元値

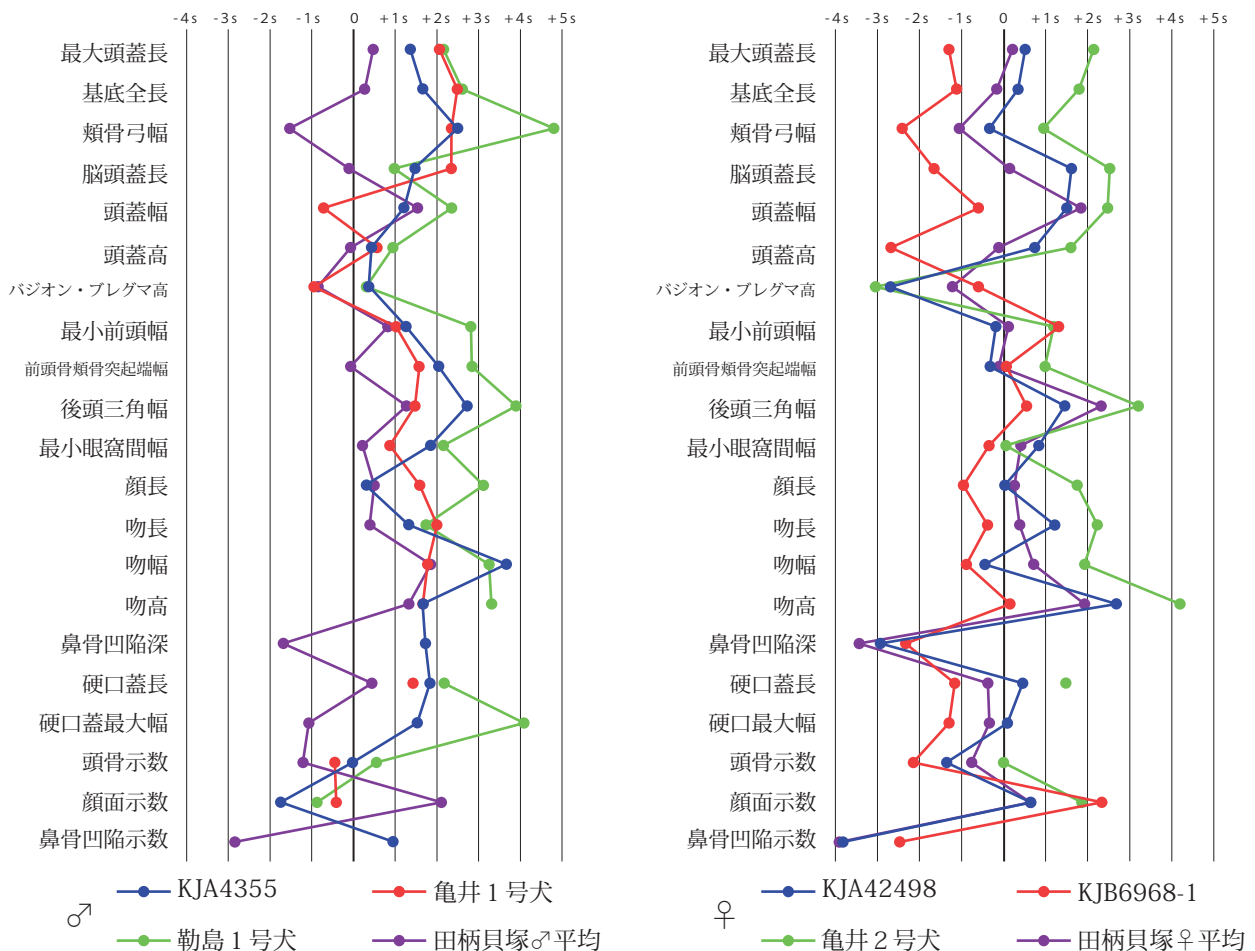


図9 頭蓋骨偏差折線

勒島1号犬に近い傾向を示していることが特筆される。

雌では、雄ほど縄文犬である田柄貝塚♀と弥生犬である他の3資料との差が明確ではなく、KJA42498もKJB6968-1も細長い顔つきで、額段（ストップ）がほとんどない個体であることが読み取れる。このことから弥生犬の特徴とされる形質（西本1999など）は雄に強く現れるものではないかと思われる。KJB6968-1は田柄貝塚♀平均よりも小さい個体であり、これと類似する傾向を示すものの、バジオン・ブレグマ高（7）の高さから脳頭蓋部が高い個体であることが分かる。亀井2号犬は突出して大きい個体であるが、バジオン・ブレグマ高（7）の低さが顕著である。KJA42498はサイズの違いはあるものの、これと似通った傾向を示している。

偏差分析の結果からは、縄文犬と弥生犬との形質差は雄において顕著であること、弥生犬のなかでも形質差があることが分かる。特に青谷上寺地遺跡の資料では同時期であっても形質に

明確な差が認められ、複数のタイプのイヌがいたと思われる。

（4）主成分分析

さらに、頭蓋骨の各種計測値を総合的に用いて、形質の近遠関係を把握するため、表14に示した資料全点を含めた主成分分析を行った（図10）。なお、主成分分析には全ての計測値が揃っていることが必要となるため、計測値が欠けている資料がある基底全長（2）、鼻骨凹陷深（16）を含めず解析している。主成分1はほぼ全ての計測項目の係数が高いため、サイズファクターとして、主成分2は頭蓋幅0.606、最小前頭幅0.469、最小眼窩間幅0.380、バジオン・ブレグマ高0.222、の順に係数が高く、脳頭蓋部の大きさ、顔面部上部の幅を示しているといえよう。大まかにみて雄が右上側、雌が左下側を中心に分布しているのは性差によるサイズと形質の違いが表われたものとみられる。また、先述の偏差分析を行った資料については、その結果と主成分分析で導かれた位置に矛盾がないことが確認できる。

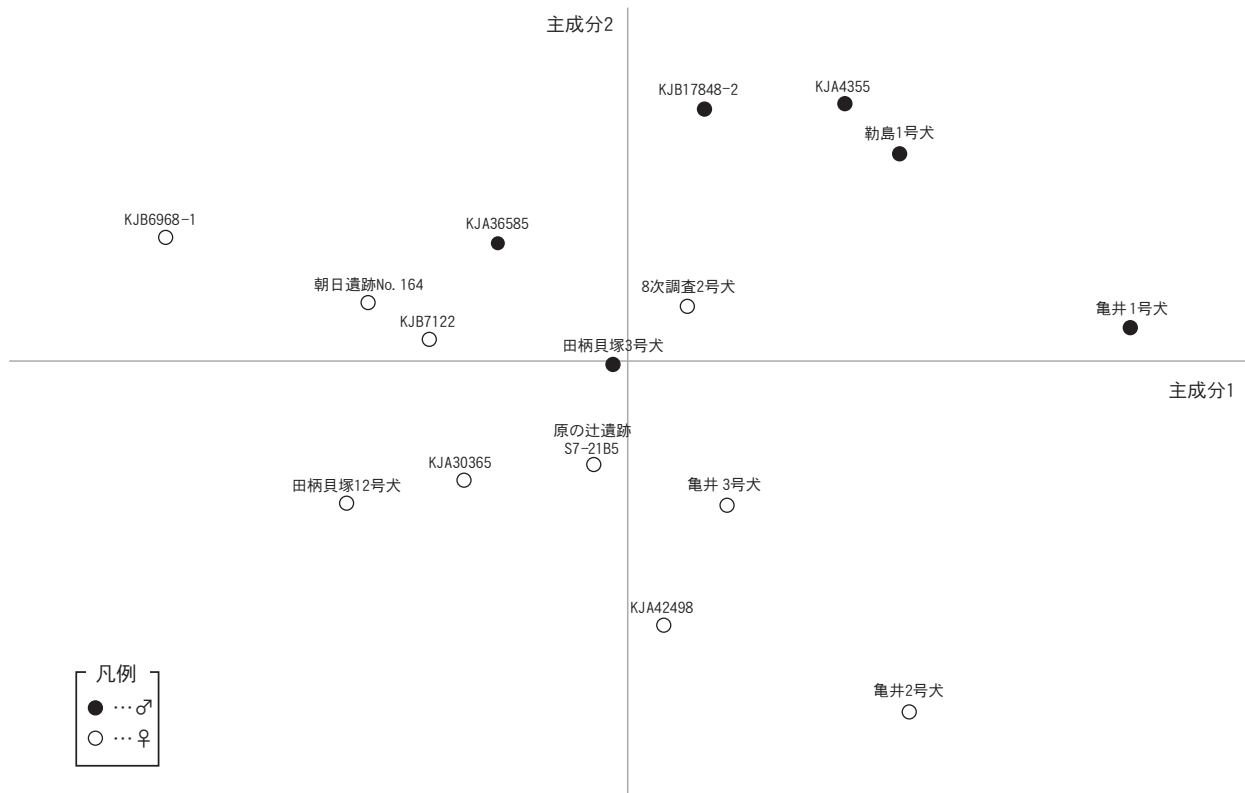


図10 頭蓋骨の主成分分析

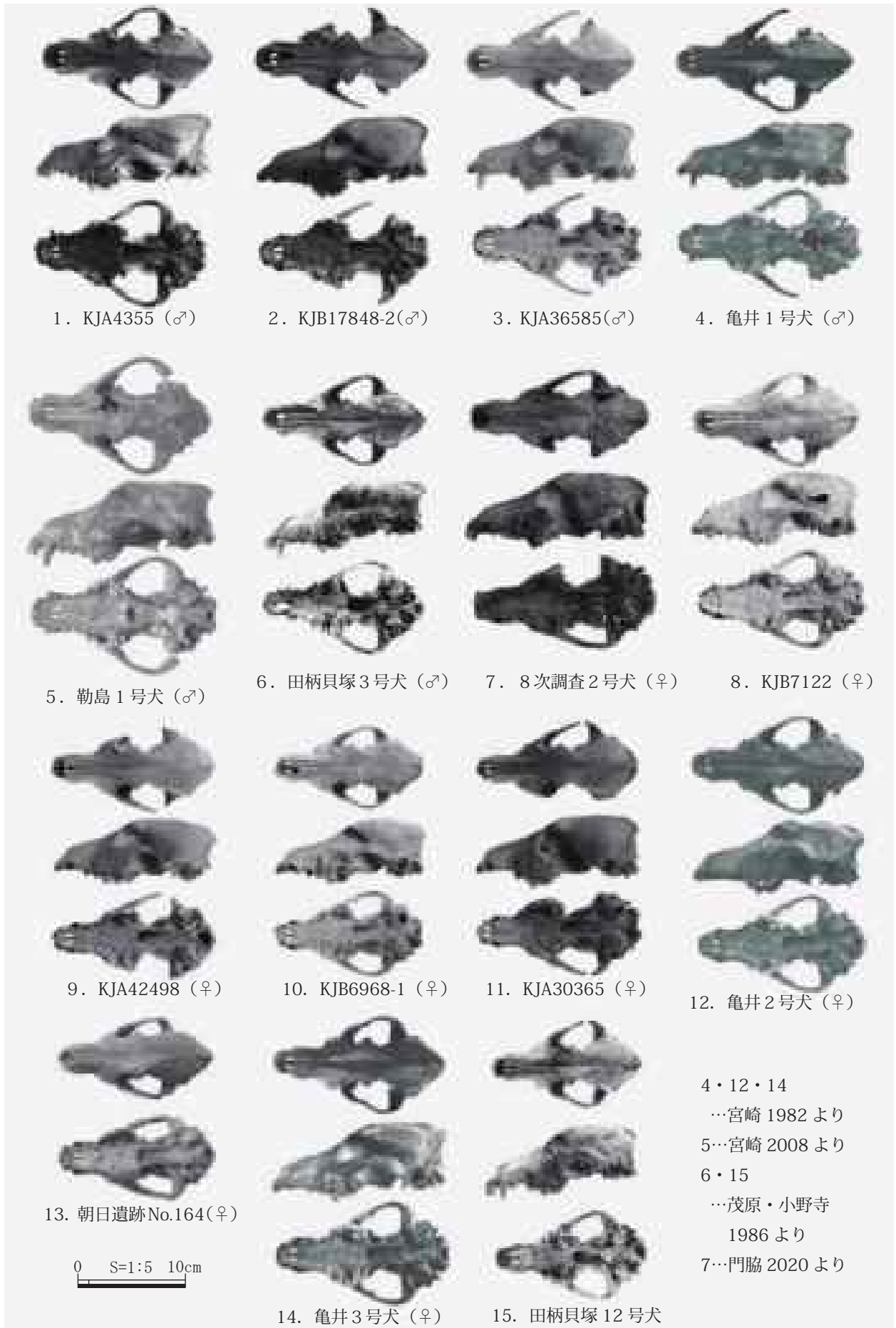


写真7 分析対象とした頭蓋骨

雄についてみると、田柄貝塚3号犬が他資料と離れた位置にある点は縄文犬と弥生犬の形質差を示していると考えられる。一方、亀井1号犬は主成分1が最も大きい一方、主成分2は小さく特異な位置にあり、弥生犬のなかにも形質差があることが分かる。また、青谷上寺地遺跡出土資料のなかでは、KJA36585は主成分1が小さく主成分2が大きいやや特異な位置であり、1遺跡のなかでの多様性を示している。また、KJA4335に最も近いのが靉島1号犬となることは、青谷上寺地遺跡と靉島遺跡間の交易が想定されている点を考えれば興味深い結果といえよう。

続いて、資料数の多い雌についてみると、KJB6968-1と亀井2号犬が全資料中で最も離れた位置となることをはじめ、弥生犬の形質のばらつきがより明瞭に見て取れる。また、田柄貝塚12号犬の位置が、雄のなかでの田柄貝塚3号犬ほど他資料と離れたものにならないことは、偏差分析の結果とも符合している。

このように主成分分析の結果は、級分類、偏差分析の結果と同様、青谷上寺地遺跡を含む弥生犬の形質の多様性を示すものといえる。

まとめ

最後に、青谷上寺地遺跡から出土した犬骨の各種分析の結果を総合的に解釈し当遺跡のイヌについて考察する。

イヌの用途としては、一部に猟犬として使役されたものがあるものの、全体的な歯のダメージの少なさや死亡年齢の低さから、使役されなかったものも多数いたと考えられる。歯槽膿漏をはじめとする家畜に特有の病変や少ないながらも認められる骨折痕からは、イヌが人間に近い環境で生活していたこと、人間の保護下におかれていたものもいたことが窺える。一方で、埋葬されることがなく、基本的に解体され散乱した状態で出土することからは、イヌが丁寧に飼育されていたとは思われない。青谷上寺地遺跡の大多数のイヌは、いわば人間社会に寄生す

るように生活し、解体痕から窺えるように必要に応じて食肉としてあるいは毛皮として利用される存在だったのではないだろうか。このようなイヌと人間との関係性は『犬の日本史』（谷口2012）で描かれた「野犬と飼い犬との区別はほとんどな」かった「町の犬」、「村の犬」という近代までの本邦のイヌの在り方を彷彿とさせるものであり、その意味で弥生時代はその後のイヌと人間の関係性が定まった画期といえるかもしれない。

また、当遺跡の犬骨の一部には、祭祀の痕跡とみられる出土状況を呈すものがある。これらの位置づけには、イノシシ類をはじめとする他の動物、動物の意匠が認められる関連遺物を含め、弥生時代の祭祀における動物の関わり方全体を視野に入れた検討が今後なされるべきであろう。

さらに、青谷上寺地遺跡のイヌの形質として、まず縄文時代のイヌと比べてもやや小型のものが主体である一方、それらとは隔絶した大きさの非在地とみられるイヌが認められる。当遺跡のイヌにみる形質のばらつきはこのように非在地のイヌが断続的にもたらされたことによって生じている可能性がある。イヌが人間に付随する家畜であることを考えれば、これら大型のイヌは他地域からの人間の移住を示唆するものといえるかもしれない。これは近年、当遺跡出土人骨のDNAの多様性から人間の移住がさかんだった可能性が示されたこと（篠田ほか2020）と同調的である。

このように、筆者は青谷上寺地遺跡から出土した犬骨を弥生人の生業や動物観、移動等について語りうる資料と捉えている。今回は頭蓋骨・下顎骨を中心とした分析に留まったが、今後、他部位を含めた検討を行えばより精度の高い結果が導かれるはずである。さらに、本稿のような動物考古学的手法で導かれた成果を下地とした理化学的分析行われることによって、新たな知見が得られることも期待されよう。例えば形質的に隔たりがある資料を対象としたDNA

分析やストロンチウム同位体比分析による来歴の検討、歯槽膿漏が見られるものや猟犬の可能性が高い資料を含めた炭素・窒素同位体分析による食性の検討などが、人間との関係性の把握のためには有効かもしれない。今後、多面的に検討されることで、弥生時代研究において青谷上寺地遺跡出土犬骨がもつ価値は更に高くなっていくものと思われる。

謝辞

京都大学名誉教授 茂原信生氏には犬骨の研究全般について、筆者の拙い質問にも丁寧に御対応いただいた。遺跡出土犬骨の研究をリードしてこられた茂原氏の御教示は筆者には大変励みになった。鳥取大学助教 岡崎健治氏には主成分分析の実施をしていただいただけでなく、その解釈についての御教示も賜った。人類学の手法を用いての頭蓋骨データの分析は岡崎氏の御協力がなくては成し得なかった。山口大学大学院連合獣医学研究科の川崎美苗氏にはイヌの病変について、獣医師としての豊富な診察経験を踏まえた御意見を賜り、それに関わる文献も御紹介いただいた。末筆ながら深く感謝申し上げる次第である。

【註】

- 1) 動物考古学の対象資料として記述する場合は「イヌ」とカタカナ表記するのが一般的であるが、本稿では読み易さを重視し、便宜的に「犬骨」、「弥生犬」などの語句を用いている。なお、1次調査の県道調査区で出土したイヌの最小個体数は50以上と報告(井上・松本2002)されているが、国道調査区出土資料・8次調査区出土資料もあわせた右下顎骨の出土点数から88個体と算定される。
- 2) このような頭蓋骨の形状による性別判別は、陰茎骨の有無のように確実なものでないことを付記しておく。
- 3) 資料の出土時期は、既往の報告書によったほか、1次調査を担当した北浦弘人氏・湯村功氏の御教示を得た。
- 4) 例えば、縄文時代後晩期における埋葬犬の増加は、シカ・イノシシ骨の出土量が増加する時期と重なる

ことから、猟犬としての需要が高まった結果と推定されている(西本1983)。

- 5) 内山は全身の骨が揃う例、及び本来は揃っていた可能性の高い例のうち「イヌ用とみられる遺構が検出されていること、姿勢が整えられていること、副葬品が供えられていること」のいずれかが確認できれば、埋葬とみなしてよいであろう(内山2009)としている。
- 6) 筆者はタヌキ・アナグマを用いて皮鞣しの実験を行い、顔面部の毛皮は鞣すことが困難であることを確認している。
- 7) イノシシと報告されているが筆者の再検討によりアナグマと確認された。
- 8) 川崎美苗氏の御教示による。

【参考文献】

- 井上貴央 2006 『青谷上寺地遺跡の弥生人と動物たち』 鳥取県教育委員会
- 井上貴央・江田真毅 2011 「第4章 動物考古学的研究 第1節 青谷上寺地遺跡内における主要動物の時空分布について」 『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告7 骨角器(2)』 鳥取県埋蔵文化財センター、41-55頁
- 井上貴央・松本充香 2001 「青谷上寺地遺跡国道調査区の獣骨について」 『青谷上寺地遺跡3』 (財) 鳥取県教育文化財団、291-297頁
- 井上貴央・松本充香 2002 「青谷上寺地遺跡から検出された人骨と動物遺存体」 『青谷上寺地遺跡4』 436-480頁、(財) 鳥取県教育文化財団
- 今泉六郎 1887 『家畜年齢図説』 有隣堂
- 内山幸子 2009 「③狩猟犬から食用犬へ」 『弥生時代の考古学5』 同成社、117-131頁
- 内山幸子 2014 『イヌの考古学』 同成社
- 小方宗次・和栗秀一・鈴木立雄・杉浦邦紀 1979 「雑種成犬の歯数変異に関する統計的調査」 『哺乳動物誌』 8(1)、33-39頁
- 扇崎由・安川満 1995 「岡山市南方(済生会)遺跡のイノシシ類下顎骨配列」 『動物考古学』 5、64～73頁
- 加藤嘉太郎 1957 『家畜比較解剖図説・上巻』 養賢堂
- 後藤仁敏・大泰司紀之 1998 『歯の比較解剖学』 医歯

- 葉出版
- 門脇隆志 2018「第 10 節 青谷横木遺跡出土動物遺存体について」『青谷横木遺跡Ⅲ 自然科学分析・総括編』鳥取県埋蔵文化財センター、162-174 頁
- 門脇隆志 2020「Ⅳ 第 8 次調査出土イヌについて - 保存処理を資料化を通して - 」『青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報 2018』鳥取県地域づくり推進部文化財局、45-54 頁
- 金子浩昌 1982「亀井遺跡出土の動物遺存体」『亀井遺跡』(財)大阪文化財センター
- 小宮孟・戸村正己 1997「千葉県境遺跡出土の縄文犬骨」『千葉県立中央博物館報告』5- 1、1～17 頁
- 齊藤弘吉 1963『犬科動物骨格計測法』私家版
- 茂原信生 1987『東京大学総合資料館所蔵の長谷部言人博士収集の犬科の動物資料カタログ』東京大学総合研究資料館標本資料報告第 13 号
- 茂原信生 1991「日本犬に見られる時代的形態変化」『国立歴史民俗博物館研究報告』29、89-101 頁
- 茂原信生・小野寺覚 1986「田柄貝塚出土犬骨の形態的特徴について」『田柄貝塚』宮城県文化財保護協会、589-651 頁
- 茂原信生・松井章 1995「原の辻遺跡出土の動物遺存体」『原の辻遺跡』長崎県教育委員会、189-207 頁
- 篠田謙一・神澤秀明・角田恒雄・安達登 2020「鳥取県鳥取市青谷上寺地遺跡出土弥生後期人骨の DNA 分析」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 219 集、163-187 頁
- (財)鳥取県教育文化財団編 2002『青谷上寺地遺跡 4 (本文編)』(財)鳥取県教育文化財団
- 鳥取県埋蔵文化財センター編 2008『青谷上寺地遺跡 9』鳥取県埋蔵文化財センター
- 鳥取県埋蔵文化財センター編 2010『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告 骨角器 (1)』鳥取県埋蔵文化財センター
- 田名部雄一 1985『犬から探る古代日本人の謎』PHP 研究所
- 谷口研語 2012『犬の日本史 人間とともに歩んだ一万年の物語』吉川弘文館
- 西本豊弘 1983「イヌ」『縄文時代の研究 2』雄山閣、161～170 頁
- 西本豊弘 1995「縄文人と弥生人の動物観」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 61 集、73～86 頁
- 西本豊弘 1994「朝日遺跡出土のイヌと動物遺体のまとめ」『朝日遺跡Ⅴ』(財)愛知県埋蔵文化財センター、329-338 頁
- 西本豊弘 1999「第 9 章 家畜その 1 - イヌ・ブタ・ニワトリ」『考古学と自然科学② 考古学と動物学』159-167 頁、同成社
- 西本豊弘 2008「イヌと日本人」『人と動物の日本史 1』吉川弘文館、180～191 頁
- 長谷部言人 1952「犬骨」『吉胡貝塚』145-150 頁、文化財保護委員会
- 本郷一美 1991「哺乳類遺存体に残された解体痕の研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 29 集、89-101 頁
- 松井章編 2006『動物考古学の手引き』独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター
- 宮崎泰史 1982「亀井遺跡のイヌについて」『亀井遺跡』(財)大阪文化財センター、205-230 頁
- 宮崎泰史 1984「亀井遺跡のイヌについて (Ⅱ)」『亀井遺跡Ⅱ』(財)大阪文化財センター、337-354 頁、
- 宮崎泰史 2008「第四章 ヌクト遺跡 C 地区 埋葬犬骨と包含層出土の犬骨」『泗川勒島 C Ⅱ』東亜大学校博物館、623-694 頁
- 山内忠平 1958「犬における骨長より体高の推定法」『鹿児島大学農学部学術報告』7、125～135 頁
- 山崎健 2008「弥生時代における漁撈と狩猟 - 伊勢湾奥部を事例として - 」『日本考古学協会 2008 年度愛知大会研究発表資料集』日本考古学協会 2008 年度愛知大会実行委員、279-289 頁
- A. Whyte, J. Obon, A. Leuza, J. Whyte and L.V. Monteagudo (2012) *Canine Severe Maxilla and Mandible Osteolysis Associated with Periodontal Disease Unperceived by Proprietors*. *Pakistan Veterinary Journal*, 33(2), 263-265
- Cornwall, I.W. (1956) *Bones for the Archaeologist*. J.M.Dent & Sons Ltd.London

表 15 対象資料一覧

凡 例 解体痕（脳：脳頭蓋部、頬：下顎体頰側、舌：下顎体舌側、枝：下顎枝）
 病変（歯：歯槽膿漏、折：骨折痕、病：その他病変）

表 15～20 の取上番号：KJA ○○→A ○○、KJB ○○→B ○○ と省略

取上番号 (本稿掲載)	調査区	グリッド	遺構名	層位	時期	大別 時期	部位	部分	左右	雌雄	級	年齢	解体 痕	病変	備考
A40624	県道 7 区	D31	-	H 層	弥生後期	Ⅲ期	頭蓋骨	右上顎骨	-	-	-	幼獣			他部位多数
							下顎骨	一部破損	左	不明	-				
							下顎骨	一部破損	右	-					
A40780-2	県道 7 区	E31	-	I 層	弥生中期後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	細片	-	不明	小	若獣			他部位あり
							下顎骨	一部破損	左	不明	小				
							下顎骨	下顎体	右	-	小				
A42117	県道 7 区	D30	-	J 層	弥生中期後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	顔面部	-	-	小	若獣	舌	歯	環椎あり
							下顎骨	完形	左	-	小				
							下顎骨	完形	右	不明	小				
A42420	県道 7 区	F31	-	J 層	弥生中期後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	上顎骨付近	-	不明	小	老獣			
							下顎骨	完形	左	-	小		舌		
A42498 (写真 6・4・ 7・9)	県道 7 区	F31	-	L 層	弥生中期後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	完形	-	-	小	壯齢獣			
							下顎骨	完形	左	♀	中小				
							下顎骨	ほぼ完形	右	-	中小				
A44017	県道 7 区	E31	-	L 層	弥生中期後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	口蓋部	-	不明	中小	老獣			
							下顎骨	一部破損	左	-	中小				
A46916	県道 6 区	H28	-	③層	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	左右上顎骨他	-	-	-	幼獣			他部位多数
							下顎骨	一部破損	左	不明	-				
							下顎骨	ほぼ完形	右	-	-				
B2634-1	国道 2 区	C18SW	-	-	不明	不明	頭蓋骨	細片	-	-	小	若獣			他部位あり
							下顎骨	ほぼ完形	左	不明	小				
							下顎骨	下顎枝	右	-	小				
B2635-1	国道 2 区	C19SE	-	-	不明	不明	頭蓋骨	頭蓋部後 方・細片	-	♀?	小	若獣			他部位あり
							下顎骨	ほぼ完形	左	-	小				
							下顎骨	ほぼ完形	右	-	小				
B2695-1	国道 2 区	C18SW	-	茶灰褐色	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	頭蓋骨	細片	-	不明	不明	成獣			他部位多数
							下顎骨	歯槽欠損	左	不明	不明				
							下顎骨	下顎枝	右	-	不明				
B3331 (写真 6・3)	国道 2 区	B19SW	-	茶灰褐色粘質土	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	頭蓋骨	細片	-	♂	小	若獣			他部位多数
							下顎骨	下顎体	右	-	小				
B4715	国道 2 区	C21SE	-	茶灰褐色粘質土	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	頭蓋骨	顔面部の一 部欠損	-	♀	小	老獣			
							下顎骨	一部破損	左	-	小		頰舌		
B6190-1	国道 2 区	B21SW	-	明茶褐色上層	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	細片	-	不明	不明	壯齢獣			歯
							下顎骨	完形	左	-	小				
B6659 (写真 6・5)	国道 2 区	B21SE	-	茶色下層	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	頬骨弓・左 側面欠損	-	♀	不明	若獣			他部位多数
							下顎骨	ほぼ完形	左	-	中小				
							下顎骨	ほぼ完形	右	-	中小				
B6968-1 (写真 7・10)	国道 2 区	C20SE	-	茶色下層	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	ほぼ完形	-	♀	小	壯齢獣		歯	他部位多数
							下顎骨	ほぼ完形	左	-	小				
							下顎骨	ほぼ完形	右	-	小				
B7122 (図 3、写真 7・8)	国道 2 区	B19	SK196	-	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	完形	-	-	中小	壯齢獣			既往埋葬犬 他部位あり
下顎骨							下顎体中央 部～下顎枝	左	♀	不明	舌				
下顎骨							ほぼ完形	右	-	小					
B7478	国道 2 区	C19SE	-	茶色下層	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	頬骨～頭頂 骨欠損	-	♂?	小	壯齢獣			解体痕ある四肢骨 片あり
							下顎骨	一部破損	右	-	小				
B14369	国道 3 区	B25NE	-	濃茶（黒灰色 粘質土まじり）	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	頭蓋骨	細片	-	不明	小	若獣			
							下顎骨	ほぼ完形	左	-	小				
							下顎骨	完形	右	-	小				
B17848-2 (写真 1・ 6・2・ 7・2)	国道 4 区	B31SE	-	灰褐色粘質土砂 まじり貝まじり	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	完形	-	♂	中小	老獣			歯
							下顎骨	ほぼ完形	左	-	小				

取上番号 (本稿掲載)	調査区	グリッド	遺構名	層位	時期	大別 時期	部位	部分	左右	雌雄	級	年齢	解体 痕	病変	備考
B18549	国道4区	B31SW	集石7	-	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	頭蓋骨	上顎骨～前 頭骨	-	♀	-	亜成獣			環椎あり
							下顎骨	一部破損	左		-				
							下顎骨	ほぼ完形	右		-				
AorB6173-2	-	-	-	-	不明	不明	頭蓋骨	一部破損	-	♀	小	壯齡獣			他部位あり
							下顎骨	完形	左		中小		頬		
							下顎骨	ほぼ完形	右		中小		頬		
8次1号犬 (3875)	8次調査区	-	第8層	-	弥生中期後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	ほぼ完形	-	♀?	不明	成獣			
							下顎骨	ほぼ完形	左		小				
							下顎骨	ほぼ完形	右		小				
8次2号犬 (3903) (写真7-7)	8次調査区	-	第8層	-	弥生中期後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	ほぼ完形	-	♀	中小	若獣	脳		
							下顎骨	ほぼ完形	左		中小				
							下顎骨	ほぼ完形	右		中小				
A5889-1 (写真4-1・ 6-8)	県道4区	I17SW	SD11	-	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	完形	左	-	中	老獣			
							下顎骨	完形	右		中				
B45-1	国道1区	C16	-	暗茶灰色シルト or 暗茶褐色シルト	古墳以降	Ⅳ期	下顎骨	下顎体中央部	左	-	不明	若獣			ビビナイト析出
							下顎骨	下顎体後部	右		不明				
B2719	国道2区	C17SE	-	茶灰褐色粘質土	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	下顎体後方	左	-	不明	成獣			他部位あり
							下顎骨	下顎体後方	右		不明				
B6292	国道2区	B22SW	-	明茶褐色下層	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	下顎骨	下顎体	左	-	中小	若獣			
							下顎骨	下顎体	右		中小				
B6770	国道2区	B22SW	-	茶色下層	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	下顎骨	ほぼ完形	左	-	小	若獣			他部位あり
							下顎骨	ほぼ完形	右		小				
B15492-2	国道4区	B30SE	-	暗灰色砂まじり 貝まじり	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	一部破損	左	-	小	老獣			
							下顎骨	完形	右		小		歯		
AorB2703- 2	-	-	-	-	不明	不明	下顎骨	下顎体	左	-	小	若獣			ビビナイト析出
							下顎骨	下顎体	右		小				
AorB9007- 2	-	-	-	-	不明	不明	下顎骨	下顎体	左	-	-	幼獣			
							下顎骨	一部破損	右		-				
A4355 (写真4-3・ 7-1)	県道4区	I17SE	SD11	-	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	頭蓋骨	完形	-	♂	中小	老獣			
A5074	県道4区	I19SW	-	③層	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	細片	-	不明	不明	不明			
A5959-2	県道4区	I17SE	SD11	-	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	頭蓋骨	左上顎骨	-	不明	小	若獣			
A6026	県道4区	I17NE	SD11	-	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	頭蓋骨	背面	-	♂	不明	不明			
A28187	県道8区	D34	SD38	埋土中	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	頭蓋骨	左上顎骨細 片	-	不明	不明	若獣			
A30365 (写真1・ 7-11)	県道8区	E38	-	D層	弥生中期～後期	-	頭蓋骨		-	♀	小	若獣			他部位あり
A32550-1	県道8区	D34	SD38	埋土中	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	頭蓋骨	頭蓋部	-	♂	小	成獣			
A33050	県道8区	D38	-	E層	弥生中期	-	頭蓋骨	右上顎骨～ 前頭骨	-	不明	中小	若獣			
A34007	県道8区	E34	木器溜4	上面	弥生後期	Ⅲ期	頭蓋骨	左上顎骨 細片	-	不明	不明	壯齡獣			
A35832	県道7区	E29	-	排水溝内	不明	不明	頭蓋骨	頬骨弓・頭蓋 部右側欠損	-	♂	小	若獣	脳		
A35837-2	県道7区	E29	-	排水溝内	不明	不明	頭蓋骨	後頭頸付近	-	不明	不明	不明			
A36585 (写真7-3)	県道7区	E29	-	J層	弥生中期後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	頬骨弓欠損	-	♂	小	若獣			
A36758	県道7区	E30	-	K層	弥生中期後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	頭蓋部	-	不明	小	不明	脳		
A36949-1 (写真5)	県道7区	D30	-	J層	弥生中期後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	鼻骨～頬骨 欠損	-	不明	-	亜成獣			
A40906	県道7区	D31	-	I層	弥生中期後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	左上顎骨細片	-	不明	不明	若獣			
A40988	県道7区	E29	-	M層	弥生前期末～ 中期前葉	I期	頭蓋骨	左上顎骨細 片	-	不明	不明	老獣			
A40989 (図5-1)	県道7区	E29	-	M層	弥生前期末～ 中期前葉	I期	頭蓋骨	頭蓋部・右 上顎骨	-	♀	小	若獣	脳		

Ⅳ 青谷上寺地遺跡の弥生犬—頭蓋骨・下顎骨資料の検討から—

取上番号 (本稿掲載)	調査区	グリッド	遺構名	層位	時期	大別 時期	部位	部分	左右	雌雄	級	年齢	解体 痕	病変	備考
A42430 (図5-2)	県道7区	D30	-	K層	弥生中期後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	顔面部の一部欠損	-	不明	不明	亜成獣	脳	病	上顎側面病変
A50620-1	県道7～8区	-	-	排土中	不明	不明	頭蓋骨	右上顎骨付近	-	不明	不明	若獣			
B609 (図5-3)	国道2区	-	-	排土1群	不明	不明	頭蓋骨	頭蓋部	-	♂	中小	成獣	脳		他部位あり
B2616-1	国道2区	C19SW	-	茶灰褐色粘質土	弥生後期～古墳前期初頭	Ⅲ期	頭蓋骨	細片	-	不明	不明	不明			
B3392-5	国道2区	B21SE	-	茶灰褐色粘質土	弥生後期～古墳前期初頭	Ⅲ期	頭蓋骨	左上顎骨	-	不明	不明	若獣			
B4335-1	国道2区	B22SW	-	茶灰褐色粘質土	弥生後期～古墳前期初頭	Ⅲ期	頭蓋骨	後頭部付近・右上顎骨	-	不明	不明	若獣			環椎あり
B4529-2	国道2区	B17	SK244	-	弥生後期	Ⅲ期	頭蓋骨	左上顎骨	-	不明	不明	壯齢獣			
B6709	国道2区	B22SE	-	黒色下層	弥生前期後葉～中期前葉	Ⅰ期	頭蓋骨	頬骨～頭頂骨欠損	-	♀	中小	壯齢獣			
B6699-3-4	国道2区	A22NE	-	茶色下層	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	頭蓋部後方	-	♂	不明	成獣			一部黒変
B6863-2	国道2区	B22SW	-	茶色下層	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	頭蓋部後方	-	不明	不明	不明			
B6939-1	国道2区	B19SE	-	茶色上層	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	頬骨弓・右側側面欠損	-	♂?	不明	老獣	病		右切歯歯槽入ボンジ状、頭椎あり
B7123 (図3)	国道2区	B19	SK196	-	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	口蓋～頭蓋底	-	不明	中小	若獣			既報告埋葬犬、他部位あり
B15661	国道4区	B32SW	-	-	不明	不明	頭蓋骨	細片	-	♂	中小	若獣			犬歯含む
B17904	国道4区	A30NE	-	濃茶砂まじり貝まじり	弥生後期～終末期	Ⅲ期	頭蓋骨	左上顎骨細片	-	不明	不明	若獣			
B18410	国道4区	A32NW	-	灰褐色シルト	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	右上顎骨付近	-	不明	中小	若獣			
B18516	国道4区	B32SE	-	灰褐色シルト(上層)	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	右上顎骨細片	-	不明	不明	壯齢獣			右側臼歯歯列異常
B18683-2	国道4区	A32NE	-	灰褐色シルト	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	右上顎骨細片	-	不明	不明	若獣			
B18685	国道4区	A32NE	-	灰褐色シルト	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	頭蓋骨	後頭部付近細片	-	不明	不明	不明			
AorB1710-2	-	-	-	-	不明	不明	頭蓋骨	上顎骨ほか細片	-	不明	中小	成獣			口蓋部・後頭部含む
A3439	県道4区	I18NE	-	②層	弥生後期～古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	下顎体	右	-	不明	成獣			風化顕著
A3631	県道4区	I18NE	SD11	-	弥生後期～古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	下顎体後方部～下顎枝	右	-	不明	成獣			
A4228-1	県道4区	I17NE	SD11	-	弥生後期～古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	一部破損	右	-	小	若獣			
A5895	県道4区	I17SE	SD11	-	弥生後期～古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	一部破損	右	-	中小	若獣			
A5897-4	県道4区	I17SE	SD11	-	弥生後期～古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	下顎体	右	-	中小	老獣			
A6058	県道4区	I18NW	SD11	-	弥生後期～古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	一部破損	右	-	小	老獣			
A6111-1	県道4区	I18SW	SD11	-	弥生後期～古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	ほぼ完形	右	-	中小	若獣			
A8266-2-2	県道5区	G23	-	②層	弥生後期～古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	ほぼ完形	右	-	中小	若獣	頬		ビビナイト析出
A9325	県道5区	G21	-	②層	弥生後期～古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	一部破損	右	-	不明	若獣	頬		
A12272-4	県道5区	E25	-	①層	古墳～奈良	Ⅳ期	下顎骨	一部破損	右	-	中小	成獣	枝		
A13265	県道5区	F24SE	-	③層	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	下顎骨	一部破損	右	-	中小	若獣	舌?		
A13432-1	県道5区	F26SE	-	排水溝中	不明	不明	下顎骨	一部破損	右	-	中	壯齢獣			
A33427	県道8区	E34	SD38	埋土中	弥生後期～古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	ほぼ完形	右	-	小	若獣			
A35711-4	県道7区	D30	-	②層	弥生後期～古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	一部破損	右	-	中	若獣			
A35821-4	県道7区	E30	-	排水溝中	不明	不明	下顎骨	ほぼ完形	右	-	小	若獣			
A35981-6	県道7区	E30	-	②層	弥生後期～古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	ほぼ完形	右	-	小	成獣			

取上番号 (本稿掲載)	調査区	グリッド	遺構名	層位	時期	大別 時期	部位	部分	左右	雌雄	級	年齢	解体 痕	病変	備考
A36253-1	県道7区	E30	-	H層	弥生後期	Ⅲ期	下顎骨	ほぼ完形	右	-	中小	若獣	枝		
A36551 (図5-9、 写真3-6)	県道7区	E30	-	I層	弥生中期後葉	Ⅱ期	下顎骨	完形	右	-	中小	壯齡獣	枝	歯折?	
A36950	県道7区	D30	-	J層	弥生中期後葉	Ⅱ期	下顎骨	下顎体	右	-	-	亜成獣			
A41308-2	県道7区	E29	-	K～L層	弥生中期後葉	Ⅱ期	下顎骨	一部破損	右	-	小	老獣			やや風化
A43835-1	県道7区	D31	-	K層	弥生中期後葉	Ⅱ期	下顎骨	完形	右	-	小	若獣	頬		
A44867 (写真3-8)	県道7区	D30	-	M層	弥生前期末～ 中期前葉	I期	下顎骨	完形	右	-	中	老獣		病	
A46660-3	県道6区	H27	-	③層	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	下顎骨	下顎体細片	右	-	不明	若獣			
A47526	県道6区	H29	SD53	埋土中	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	下顎骨	下顎体前部	右	-	不明	若獣			
A48242-7 (図5-8)	県道6区	G28	貝塚	-	弥生中期前葉	I期	下顎骨	一部破損	右	-	小	若獣	頬 舌		
A48459	県道6区	H28	SK339	埋土中	弥生前期末～ 中期前葉	I期	下顎骨	下顎体	右	-	不明	若獣			
A48576	県道6区	F29	-	①～⑦層	弥生前期後葉～奈良	-	下顎骨	下顎体中央部	右	-	不明	若獣			
A48606-1	県道6区	H28	SD52	-	弥生前期末～ 中期前葉	I期	下顎骨	下顎体後方 部～下顎枝	右	-	不明	老獣			一部焦げあり
A48781-3	県道6区	H28	-	⑥層	弥生前期後葉～ 中期前葉	I期	下顎骨	下顎体後方部	右	-	不明	老獣	枝		
A50252	県道7～8区	-	-	排土中	不明	不明	下顎骨	下顎体中央部	右	-	-	幼獣			
A50319-2	県道7～8区	-	-	排土中	不明	不明	下顎骨	下顎体中央部	右	-	不明	老獣	舌		
A3437 (写真3-2)	県道4区	I18NE	-	②層	弥生後期～古墳前期 初頭	Ⅲ期	下顎骨	ほぼ完形	左	-	小	若獣	頬	折?	
A3910-2	県道4区	I17NE	SD11	-	弥生後期～古墳前期 初頭	Ⅲ期	下顎骨	下顎枝細片	左	-	不明	不明			
A4202	県道4区	J18SW	SD11	-	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	ほぼ完形	左	-	中小	老獣			
A5028-1	県道4区	I18	-	③層	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	下顎骨	一部破損	左	-	不明	成獣			
A5687 (写真2)	県道4区	I18NE	-	-	不明	不明	下顎骨	下顎枝	左	-	不明	不明	頬		犠牲獣?、 他部位あり
A5690	県道4区	I18NE	-	②層	弥生後期～古墳前期 初頭	Ⅲ期	下顎骨	ほぼ完形	左	-	小	成獣			他部位あり
A5690	県道4区	I18NE	-	②層	弥生後期～古墳前期 初頭	Ⅲ期	下顎骨	下顎体中央 部	左	-	不明	老獣			他部位あり
A5930	県道4区	I17NE	SD11	-	弥生後期～古墳前期 初頭	Ⅲ期	下顎骨	一部破損	左	-	-	幼獣			
A5981 (図5-5、 写真3-7)	県道4区	H17NE	SD11	-	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	一部破損	左	-	小	若獣	頬	歯	病変既報告
A8372	県道5区	-	-	②層	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	下顎体中央 部	左	-	不明	若獣	舌		
A15426 (写真6-1)	県道5区	E25SE	貝塚	-	弥生中期前葉	I期	下顎骨	一部破損	左	-	小	老獣	頬		
A17259 (図5-4)	県道5区	F24SE	-	⑤層	弥生前期後葉～ 中期前葉	I期	下顎骨	下顎体	左	-	不明	若獣	頬		
A28554-1	県道8区	D34	-	A層	弥生後期	Ⅲ期	下顎骨	ほぼ完形	左	-	中小	若獣			SD69の下
A34743	県道8区	E34	SD38	埋土中	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	完形	左	-	小	老獣			
A35834-1	県道7区	E30	-	排水溝中	不明	不明	下顎骨	下顎体	左	-	不明	若獣			他部位あり
A36225-1	県道7区	E30	-	H層	弥生後期	Ⅲ期	下顎骨	一部破損	左	-	小	若獣	頬		
A36679	県道7区	E29	-	J層	弥生中期後葉	Ⅱ期	下顎骨	一部破損	左	-	中小	若獣			
A39083	県道7区	D30	木器溜3	-	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	下顎骨	下顎体	左	-	-	亜成獣			
A39928	県道7区	E31	-	②層	弥生後期～ 古墳前期初頭	Ⅲ期	下顎骨	下顎体前部	左	-	不明	成獣			
A42117	県道7区	D30	-	J層	弥生中期後葉	Ⅱ期	下顎骨	下顎体	左	-	中小	若獣			
A43785-1	県道7区	D31	-	K層	弥生中期後葉	Ⅱ期	下顎骨	完形	左	-	小	若獣			
A45459-6	県道6区	G28	-	②～③層	弥生中期中葉～ 古墳前期初頭	-	下顎骨	下顎体中央 部	左	-	-	亜成獣			
A46847-2	県道6区	H28	-	③層	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	下顎骨	完形	左	-	小	若獣			

Ⅳ 青谷上寺地遺跡の弥生犬一頭蓋骨・下顎骨資料の検討から一

取上番号 (本稿掲載)	調査区	グリッド	遺構名	層位	時期	大別 時期	部位	部分	左右	雌雄	級	年齢	解体 痕	病変	備考
A47824 (図5-7)	県道6区	H28	-	⑨層	弥生前期後葉～ 中期前葉	I期	下顎骨	ほぼ完形	左	-	中小	若獣	頬 舌		
A48135-3	県道6区	G28	-	貝塚～⑨層	弥生前期後葉～ 中期前葉	I期	下顎骨	下顎枝細片	左	-	不明	成獣			
A48698-1	県道6区	不明	貝塚	-	弥生中期前葉	I期	下顎骨	下顎体	左	-	不明	若獣			
B789-14	国道2区	-	-	排土中	不明	不明	下顎骨	下顎枝	右	-	不明	成獣			
B1773-3	国道2区	B19SW	-	I層	古墳～奈良	IV期	下顎骨	下顎体後方 部～下顎枝	右	-	不明	若獣			
B2917-15	国道2区	B20NW	-	-	不明	不明	下顎骨	一部破損	右	-	小	若獣			
B3148	国道2区	B19NE	-	茶灰褐色粘質土	弥生後期～ 古墳前期初頭	III期	下顎骨	完形	右	-	小	若獣			
B3193	国道2区	B18SW	-	茶灰褐色粘質土	弥生後期～ 古墳前期初頭	III期	下顎骨	下顎体後方 部	右	-	不明	成獣			
B5488-1	国道1区	B15SW	SD33	-	弥生後期	III期	下顎骨	一部破損	右	-	小	若獣			風化
B6727-2	国道2区	B21NE	-	茶色下層	弥生中期中葉～後葉	II期	下顎骨	下顎体前方部	右	-	不明	老獣			やや風化
B6739-2	国道2区	B22SE	-	茶色下層	弥生中期中葉～後葉	II期	下顎骨	完形	右	-	中小	老獣			やや風化
B6796 (写真3-4)	国道2区	B21SW	-	茶色下層	弥生中期中葉～後葉	II期	下顎骨	ほぼ完形	右	-	小	若獣		歯	病変既報告
B6841-5	国道2区	B22SW	-	黒色下層	弥生前期後葉～中期 前葉	I期	下顎骨	完形	右	-	小	若獣			やや風化
B6870-4	国道2区	C21SE	-	茶色下層	弥生中期中葉～後葉	II期	下顎骨	一部破損	右	-	不明	若獣			
B6923-5	国道2区	B22NE	-	茶色下層	弥生中期中葉～後葉	II期	下顎骨	下顎体	右	-	-	幼獣			
B6962-2	国道2区	B22NW	-	茶色下層	弥生中期中葉～後葉	II期	下顎骨	下顎体	右	-	-	幼獣			
B6983-1	国道2区	B19S	-	-	不明	不明	下顎骨	下顎体	右	-	中小	壯齢獣			
B7025-2 (写真4-2)	国道2区	B19SE	-	明茶褐色土下層	弥生中期中葉～後葉	II期	下顎骨	完形	右	-	中小	老獣		歯	
B7491	国道2区	C19SE	-	茶色下層	弥生中期中葉～後葉	II期	下顎骨	ほぼ完形	右	-	小	若獣			ビアナイト析出
B7539-1	国道2区	B21	-	東西ベルト内	不明	不明	下顎骨	完形	右	-	不明	老獣			
B7920	国道3区	B26NW	-	①層	古墳～奈良	IV期	下顎骨	一部破損	右	-	不明	若獣			
B10964	国道3区	B27SE	-	-	不明	不明	下顎骨	下顎体	右	-	不明	若獣			
B14662	国道3区	B26NE	-	砂層中	弥生中期中葉～後葉	II期	下顎骨	下顎体	右	-	小	若獣			
B14836	国道3区	B28SW	SK201	下層②	弥生中期中葉～後葉	II期	下顎骨	ほぼ完形	右	-	小	若獣		歯	
B16398-4 (写真6-7)	国道4区	B33SW	-	濃茶砂まじり 貝まじり	弥生後期～終末期	III期	下顎骨	ほぼ完形	右	-	中	老獣			
B16711	国道4区	B33NE	SA24	濃茶植物まじ り粘質土	弥生後期～ 古墳前期初頭	III期	下顎骨	一部破損	右	-	中	成獣			
B17515-1	国道4区	A31SW	SD38-3	砂層中	弥生終末～ 古墳前期初頭	III期	下顎骨	一部破損	右	-	-	幼獣			
B17561-1	国道4区	B32SW	SD38-2	砂層貝まじり	弥生後期～終末期	III期	下顎骨	完形	右	-	-	幼獣			
B18137	国道4区	A33NW	-	灰褐色シルト 質粘質土	弥生中期中葉～後葉	II期	下顎骨	ほぼ完形	右	-	中小	老獣		頬	
B18636	国道4区	A31SE	-	灰褐色シルト	弥生中期中葉～後葉	II期	下顎骨	一部破損	右	-	小	若獣			
B18736	国道4区	B31NW	-	濃茶砂まじり 貝まじり	弥生後期～終末期	III期	下顎骨	完形	右	-	小	若獣		頬 舌	
AorB668-2	-	-	-	-	不明	不明	下顎骨	完形	右	-	中小	若獣			
AorB789-8	-	-	-	-	不明	不明	下顎骨	完形	右	-	小	老獣			ビアナイト析出
AorB2686-3	-	-	-	-	不明	不明	下顎骨	下顎体中央部	右	-	不明	老獣			風化
B2277	国道2区	B18SW	-	-	不明	不明	下顎骨	下顎体後方部	左	-	不明	成獣			
B2459-2	国道2区	C18SW	-	I層	古墳～奈良	IV期	下顎骨	下顎体中央部	左	-	不明	成獣			
B3942	国道2区	B17	SK192	茶灰褐色粘質土	弥生中期中葉～後葉	II期	下顎骨	下顎体細片	左	-	不明	若獣			風化
B4318	国道2区	B21SW	-	茶灰褐色粘質土	弥生後期～ 古墳前期初頭	III期	下顎骨	下顎体	左	-	小	若獣		頬 舌	
B5977	国道1区	B15	SD33	-	弥生後期	III期	下顎骨	一部破損	左	-	小	若獣			
B6964-1	国道2区	B22NW	-	茶色下層	弥生中期中葉～後葉	II期	下顎骨	ほぼ完形	左	-	中小	若獣			先端部焦げあり
B7016	国道2区	B22NW	-	黒色下層	弥生前期後葉～ 中期前葉	I期	下顎骨	ほぼ完形	左	-	-	幼獣			
B7169-3-2	国道2区	B18S	-	-	不明	不明	下顎骨	下顎体細片	左	-	不明	成獣			
B15320 (図5-6、 写真3-1)	国道4区	A33NW	-	トレンチ内	不明	不明	下顎骨	一部破損	左	-	中小	若獣		頬 折歯	病変既報告

取上番号 (本稿掲載)	調査区	グリッド	遺構名	層位	時期	大別 時期	部位	部分	左右	雌雄	級	年齢	解体 痕	病変	備考
B17447 (写真6-6)	国道4区	B32SW	SD38-2	砂層貝まじり	弥生後期～終末期	Ⅲ期	下顎骨	完形	左	-	中	壮齢獣			
B18635	国道4区	A31SE	-	灰褐色シルト	弥生中期中葉～後葉	Ⅱ期	下顎骨	一部破損	左	-	小	若獣			
B18749 (写真3-5)	国道4区	B31NE	-	濃茶砂まじり 貝まじり	弥生後期～終末期	Ⅲ期	下顎骨	一部破損	左	-	小	若獣		歯	既報告
B18844 (写真5)	国道4区	B31SE	-	暗灰褐色砂まじり 粘質土(混貝)	縄文晩期～弥生前期 後葉	-	下顎骨	ほぼ完形	左	-	-	幼獣	舌		一部焦げあり
AorB2807-2	-	-	-	-	不明	不明	下顎骨	ほぼ完形	左	-	小	壮齢獣			他部位あり
AorB3660-2	-	-	-	-	不明	不明	下顎骨	下顎体	左	-	中小	若獣			
AorB6018-2	-	-	-	-	不明	不明	下顎骨	一部破損	左	-	不明	若獣			風化

表 16 歯の観察表 (同一個体)

凡 例 □: 後天的欠歯、○: 先天的欠歯、×: 脱落歯・破損、[]: 残存箇所、
-: 未萌出、a: 萌出途次、b: 萌出完了、c: 咬耗開始、d: 咬耗進行

取上番号	部位	歯の萌出と咬耗状況																					年齢区分 (推定年齢) 備考	
		右											左											
		M3	M2	M1	m3	m2	m1	P1	c	i3	i2	i1	i1	i2	i3	c	P1	m1	m2	m3	M1	M2		M3
A40624	頭蓋骨				[m ³ b]	[m ² b]	[m ¹ ×]	[c] -																
	下顎骨			[M ₁ a]	[m ₃ ×]	[m ₂ ×]	[m ₁ c]	[P ₁ a?]	[C] a?							[C a]	[P ₁ a?]	[m ₁ ×]	[m ₂ c]	[m ₃ ×]	[M ₁ a]			
A40780-2	頭蓋骨																							
	下顎骨	[M ₃ ×]	[M ₂ c]	[M ₁ c]	[P ₄ c]	[P ₃ c]	[P ₂ ×]	[P ₁ ×]	[C] ×]							[C ×]	[P ₁ ×]	[P ₂ ×]	[P ₃ c]	[P ₄ c]	[M ₁ c]	[M ₂ c]	[M ₃ ×]	
A42117	頭蓋骨				[p ⁴ ×]	[p ³ ×]	[p ² ×]	[p ¹ ×]	[C ×]	[i ³ ×]	[i ² ×]	[i ¹ ×]	[i ¹ ×]	[i ² ×]	[i ³ ×]	[C ×]	[P ¹ ×]	[P ² ×]	[P ³ ×]	[P ⁴ ×]	[M ¹ c]	[M ² c]		
	下顎骨	[M ₃ ×]	[M ₂ c]	[M ₁ c]	[P ₄ c?]	[P ₃ c]	[P ₂ c]	[P ₁ ×]	[C c]	[i ₃ c-d]	[i ₂ ×]	[i ₁ ×]	[i ₁ ×]	[i ₂ ×]	[i ₃ ×]	[C c]	[P ₁ ×]	[P ₂ ×]	[P ₃ ×]	[P ₄ c]	[M ₁ c]	[M ₂ c]	[M ₃ ×]	
A42420	頭蓋骨				[p ³ c]	[p ² c]	[p ¹ ×]	[C] c]							[i ¹ ×]	[i ² ×]	[i ³ ×]	[C ×]	[P ¹ ×]	[P ² ×]	[P ³ ×]	[M ¹ d]	[M ² ×]	
	下顎骨														[i ₁ ×]	[i ₂ ×]	[i ₃ ×]	[C c]	[P ₁ ×]	[P ₂ ×]	[P ₃ c-d]	[P ₄ d]	[M ₁ d]	[M ₂ d]
A42498	頭蓋骨		[M ² d]	[M ¹ c]	[P ⁴ c]	[P ³ ×]	[P ² c]	[P ¹ c]	[C c]	[i ³ ×]	[i ² ×]	[i ¹ ×]	[i ¹ ×]	[i ² ×]	[i ³ ×]	[C c]	[P ¹ c]	[P ² c]	[P ³ c]	[P ⁴ c]	[M ¹ d]	[M ² c]		
	下顎骨	[M ₃ ×]	[M ₂ c]	[M ₁ c]	[P ₄ c]	[P ₃ c]	[P ₂ ×]	[P ₁ ×]	[C ×]	[i ₃ ×]	[i ₂ ×]	[i ₁ ×]	[i ₁ ×]	[i ₂ ×]	[i ₃ ×]	[C d]	[P ₁ ×]	[P ₂ ×]	[P ₃ ×]	[P ₄ c]	[M ₁ d]	[M ₂ d]	[M ₃ ×]	
A44017	頭蓋骨		[M ² ×]	[M ¹ ×]	[P ⁴ c]	[P ³ c]	[P ² ×]	[P ¹ ×]	[C ×]	[i ³ ×]	[i ² ×]	[i ¹ ×]	[i ¹ ×]	[i ² ×]	[i ³ ×]	[C ×]	[P ¹ ×]	[P ² ×]	[P ³ ×]	[P ⁴ ×]	[M ¹ d?	[M ² d]		
	下顎骨													[i ₁ ×]	[i ₂ ×]	[i ₃ ×]	[C ×]	[P ₁ ×]	[P ₂ ×]	[P ₃ ×]	[P ₄ c-d]	[M ₁ ×]	[M ₂ d]	[M ₃ ×]
A46916	頭蓋骨				[m ³ b]	[m ² b]	[m ¹ ×]	[P ¹ a]	[c] ×]								[P ¹ a]	[m ¹ b]	[m ² b]	[m ³ b]				
	下顎骨				[m ₃ c]	[m ₂ ×]	[m ₁ ×]	-	[c ×]	[i ₃ ×]	[i ₂ ×]	[i ₁ ×]				[c ×]	[m ₁ ×]	[m ₂ ×]	[m ₃ b]	[]				
B2634-1	頭蓋骨		[M ² ×]	[M ¹ c]	[P ⁴ ×]	[P ³ ×]										[C ×]	[P ¹ ×]	[P ² ×]	[P ³ ×]	[P ⁴ ×]	[M ¹ ×]	[M ² ×]		
	下顎骨	[M ₃ ×]	[M ₂ ×]	[M ₁ ×]									[i ₁ ×]	[i ₂ ×]	[i ₃ ×]	[C ×]	[P ₁ ×]	[P ₂ ×]	[P ₃ ×]	[P ₄ ×]	[M ₁ ×]	[M ₂ ×]	[M ₃ ×]	
B2635-1	頭蓋骨														[i ¹ ×]	[i ² ×]	[i ³ ×]	[C] ×]				[M ¹ ×]	[M ² ×]	
	下顎骨	[M ₃ ×]	[M ₂ c]	[M ₁ ×]	[P ₄ c]	[P ₃ c]	[P ₂ ×]	[P ₁ ×]	[C ×]	[i ₃ ×]	[i ₂ ×]	[i ₁ ×]	[i ₁ ×]	[i ₂ ×]	[i ₃ ×]	[C ×]	[P ₁ ×]	[P ₂ ×]	[P ₃ c]	[P ₄ ×]	[M ₁ ×]	[M ₂ ×]	[M ₃ ×]	
B2695-1	頭蓋骨																							
	下顎骨	[M ₃ ×]	[M ₂ ×]	[M ₁ ×]													[P ₂ ×]	[P ₃ ×]	[P ₄ ×]	[M ₁ ×]	[M ₂ ×]	[M ₃ ×]		
B3331	頭蓋骨		[M ² c]	[M ¹ c]	[P ⁴ c]	[P ³ ×]	[P ² ×]	[P ¹ ×]	[C] ×]								[C ×]	[P ¹ ×]	[P ² c]	[P ³ c]	[P ⁴ c]	[M ¹ c]	[M ² ×]	
	下顎骨	[M ₃ ×]	[M ₂ c]	[M ₁ c]	[P ₄ ×]	[P ₃ ×]	[P ₂ c]	[P ₁ ×]	[C c?]	[i ₃ ×]	[i ₂ ×]	[i ₁ ×]				[C ×]	[P ₁ ×]	[P ₂ ×]	[P ₃ c]	[P ₄ d]	[M ₁ d]	[M ₂ ×]	[M ₃ ×]	
B4715	頭蓋骨		[M ² ×]	[M ¹ d]	[P ⁴ ×]												[P ¹ d]	[P ² d]	[P ³ c-d]	[P ⁴ d]	[M ¹ d]	[M ² ×]		
	下顎骨													[i ₁ ×]	[i ₂ ×]	[i ₃ ×]	[C d]	[P ₁ ×]	[P ₂ c]	[P ₃ c]	[P ₄ d]	[M ₁ d]	[M ₂ d]	[M ₃ ×]

IV 青谷上寺地遺跡の弥生犬一頭蓋骨・下顎骨資料の検討から一

取上番号	部位	歯の萌出と咬耗状況																					年齢区分 (推定年齢) 備考					
		右											左															
		M3	M2	M1	m3 P4	m2 P3	m1 P2	P1	c	i3	i2	i1	i1	i2	i3	c	P1	m1 P2	m2 P3	m3 P4	M1	M2		M3				
B6190-1	頭蓋骨																		[P ³	P ⁴	M ¹							
	下顎骨												I ₁	I ₂	I ₃	C	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	M ₁	M ₂	M ₃					
B6659	頭蓋骨				[P ⁴	P ³	P ²	P ¹	C	I ³	I ²	I ¹																
	下顎骨	M ₃	M ₂	M ₁	P ₄	P ₃	P ₂	P ₁	C	I ₃	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	I ₃	C	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	M ₁	M ₂	M ₃					
B6968-1	頭蓋骨																											
	下顎骨	M ₃	M ₂	M ₁	P ₄	P ₃	P ₂	P ₁	C	I ₃	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	I ₃	C	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	M ₁	M ₂	M ₃					
B7122 B7142 B7120	頭蓋骨																											
	下顎骨	[M ₃	M ₂	M ₁	P ₄	P ₃	P ₂	P ₁	C]												[P ₄	M ₁	M ₂	M ₃]				
B7478	頭蓋骨																											
	下顎骨	M ₃	M ₂	M ₁	P ₄	P ₃	P ₂	P ₁	C	I ₃	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	I ₃	C	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	M ₁	M ₂	M ₃					
B14369	頭蓋骨																											
	下顎骨	M ₃	M ₂	M ₁	P ₄	P ₃	P ₂	P ₁	C	I ₃	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	I ₃	C	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	M ₁	M ₂	M ₃					
B17848-2	頭蓋骨																											
	下顎骨																											
B18549	頭蓋骨																											
	下顎骨	M ₃	M ₂	M ₁	P ₄	P ₃	P ₂	P ₁	C	I ₃	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	I ₃	C	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	M ₁	M ₂	M ₃					
AorB 6173-2	頭蓋骨																											
	下顎骨	M ₃	M ₂	M ₁	P ₄	P ₃	P ₂	P ₁	C	I ₃	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	I ₃	C	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	M ₁	M ₂	M ₃					
8次1号犬 (3875)	頭蓋骨																											
	下顎骨	[?	M ₂	M ₁	P ₄	P ₃	P ₂	P ₁													[P ₃	P ₄	M ₁	M ₂	?			
8次2号犬 (3903)	頭蓋骨																											
	下顎骨	M ₃	M ₂	M ₁	P ₄	P ₃	P ₂	P ₁	C	I ₃	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	I ₃	C	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	M ₁	M ₂	M ₃					
A5889-1	下顎骨	M ₃	M ₂	M ₁	P ₄	P ₃	P ₂	P ₁	C	I ₃	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	I ₃	C	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	M ₁	M ₂	M ₃					
B45-1	下顎骨	[M ₃	M ₂	M ₁]																	[P ₄	M ₁	M ₂	M ₃]				
B2719	下顎骨	[M ₃	M ₂	M ₁]																			[M ₂	M ₃]				
B6292	下顎骨	M ₃	M ₂	M ₁	P ₄	P ₃	P ₂	P ₁	C	I ₃	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	I ₃	C	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	M ₁	M ₂	M ₃					
B6770	下顎骨	M ₃	M ₂	M ₁	P ₄	P ₃	P ₂	P ₁	C	I ₃	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	I ₃	C	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	M ₁	M ₂	M ₃					
B15492-2	下顎骨	M ₃	M ₂	M ₁	P ₄	P ₃	P ₂	P ₁	C	I ₃	I ₂	I ₁	I ₁	I ₂	I ₃	C	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	M ₁	M ₂	M ₃					
AorB 2703-2	下顎骨	[M ₃	M ₂	M ₁	P ₄	P ₃	P ₂]														[P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	M ₁	M ₂	M ₃]	
AorB 9007-2	下顎骨	[M ₃	M ₂	M ₁	P ₄	P ₃]															[C	P ₁	P ₂	P ₃	P ₄	M ₁	M ₂	M ₃]

表 17 歯の観察表（頭蓋骨単独）

凡 例 □：後天的欠歯、□：先天的欠歯、×：脱落歯・破損、[]：残存箇所、
 -：未萌出、a：萌出途次、b：萌出完了、c：咬耗開始、d：咬耗進行

取上番号	歯の萌出と咬耗状況																				年齢区分 (推定年齢) 備考	
	右										左											
	M ²	M ¹	m ³ p ⁴	m ² p ³	m ¹ p ²	p ¹	c	i ³	i ²	i ¹	i ¹	i ²	i ³	c	p ¹	m ¹ p ²	m ² p ³	m ³ p ⁴	M ¹	M ²		
A4355	M ² d	M ¹ d	p ⁴ d	p ³ d	p ² d	p ¹ d	C d	i ³ d	i ² d	i ¹ d	i ¹ ☒	i ² d	i ³ d	C ×	p ¹ ×	p ² ×	p ³ d	p ⁴ d	M ¹ ☒	M ² ☒	老獣 右C破折後咬耗	
A5074		[M ¹ ×	p ⁴ ×	p ³ ×																	不明	
A5959-2														[C ×	p ¹ ×	p ² c	p ³ c	p ⁴ c	M ¹ c	M ² c	若獣	
A6026																						不明
A28187																	[p ³ ×	p ⁴ c	M ¹ c			若獣
A30365	M ² ☒?	M ¹ ☒	p ⁴ c	p ³ c	p ² ☒	p ¹ ×	C ×	i ³ ×	i ² ×	i ¹ ×	i ¹ ×	i ² ×	i ³ ×	C ×	p ¹ ×	p ² □	p ³ c	p ⁴ c	M ¹ c	M ² c	若獣	
A32550-1																						成獣 頭蓋骨より
A33050	[M ² c	M ¹ c	p ⁴ c	p ³ ×	p ² □	p ¹ ×																若獣
A34007											[i ¹ d	i ² d	i ³ d	C c	p ¹ c	p ² c	p ³ c	p ⁴ d	M ¹ ×		壮齢獣	
A35832	M ² ☒	M ¹ c	p ⁴ c	p ³ c	p ² c	p ¹ ×	C ×	i ³ ×	i ² ×	i ¹ ×	i ¹ ×	i ² ×	i ³ ×	C ×	p ¹ c	p ² c	p ³ c	p ⁴ c	M ¹ c	M ² c	若獣 右P1過剰歯か	
A35837-2																						不明
A36585	M ² c	M ¹ c	p ⁴ c	p ³ c	p ² □	p ¹ ×	C c	i ³ ×	i ² ×	i ¹ ×	i ¹ ×	i ² ×	i ³ ×	C c	p ¹ ×	p ² □	p ³ c	p ⁴ c	M ¹ ×	M ² c	若獣	
A36758																						
A36949-1		[M ¹ b	p ⁴ b	p ³ ×	p ² ×	p ¹ ×	C ×	i ³ ×	i ² ×	i ¹ ×	i ¹ ×	i ² ×	i ³ ×	C ×	p ¹ ×	p ² ×	p ³ b	p ⁴ b	M ¹ b	M ² b	亜成獣	
A40906																		[P ⁴ c	M ¹ c			若獣
A40988																		[P ³ c	p ⁴ c	M ¹ d	M ² d	老獣
A40989	[M ² c-d	M ¹ c-d	p ⁴ c-d	p ³ c-d																		若獣
A42430	[M ² b	M ¹ b	p ⁴ b	p ³ ×	p ² b	p ¹ ×	C ×									[P ² b	p ³ b	p ⁴ b	M ¹ b	M ² b	亜成獣	
A50620-1	[M ² c	M ¹ c	p ⁴ c	p ³ c	p ² ×																	若獣
B609																						成獣 頭蓋骨より
B2616-1																						不明
B3392-5																		[P ³ c	p ⁴ c	M ¹ c		若獣
B4335-1			[P ⁴ c	p ³ c																		若獣
B4529-2														[C ×	p ¹ c	p ² d	p ³ c	p ⁴ ×			壮齢獣	
B6709	M ² c	M ¹ c	p ⁴ c	p ³ d	p ² c	p ¹ ×	C ×	i ³ d	i ² d	i ¹ ×	i ¹ ×	i ² d	i ³ ×	C ×	p ¹ ×	p ² c	p ³ c	p ⁴ c	M ¹ c	M ² c	壮齢獣	
B6699-3-4																						成獣 頭蓋骨より
B6863-2																						不明

取上番号	歯の萌出と咬耗状況																		年齢区分 (推定年齢) 備考			
	右									左												
	M ²	M ¹	m ³ P ⁴	m ² P ³	m ¹ P ²	P ¹	c	i ³ I ³	i ² I ²	i ¹ I ¹	i ¹ I ¹	i ² I ²	i ³ I ³	c	P ¹	m ¹ P ²	m ² P ³	m ³ P ⁴		M ¹	M ²	
B6939-1	M ² ×	M ¹ ×	P ⁴ c	P ³ ×	P ² ×	P ¹ ×	C ×	I ³ ☒	I ² ☒	I ¹ ☒				[C ×	P ¹ ☒?	P ² ×	P ³ c	P ⁴ d	M ¹ d	M ² ×	老獣 II~3病変か	
B7123	M ² c	M ¹ c	P ⁴ ×	P ³ ×	P ² ☒	P ¹ ×	C ×	I ³ ×	I ² ×	I ¹ ×	I ¹ ×	I ² ×	I ³ ×	C ×	P ¹ ×	P ² ×	P ³ ×	P ⁴ c	M ¹ c	M ² c	若獣	
B15661	M ² ×	M ¹ c	P ⁴ c	P ³ ×	P ² ×	P ¹ ×	C ×	I ³ c	I ² ×	I ¹ ×	I ¹ □	I ² □	I ³ ×	C ×	P ¹ ×	P ² c	P ³ c	P ⁴ ×	M ¹ c	M ² ×	若獣	
B17904																		[P ⁴ c	M ¹ c	M ² c	若獣	
B18410	[M ² c	M ¹ c	P ⁴ c	P ³ c	P ² ×	P ¹ ×	C ×															若獣
B18516	[M ² d	M ¹ d	P ⁴ c	P ³ c	P ² c	P ¹ ×	C ×															壮齢獣
B18683-2																	[P ³ c	P ⁴ c	M ¹ c	M ² c	若獣	
B18685																						不明
AorB1710-2	[M ² ×	M ¹ ×	P ⁴ ×	P ³ ×	P ² ×	P ¹ □	C ×							[C ×	P ¹ ×	P ² ×	P ³ ×	P ⁴ ×	M ¹ ×	M ² ×	成獣	

表 18 歯の観察表 (下顎骨単独)

凡例 ☒:後天的欠歯、□:先天的欠歯、×:脱落歯・破損、[]:残存箇所、
-:未萌出、a:萌出途次、b:萌出完了、c:咬耗開始、d:咬耗進行

取上番号 左右	歯の萌出と咬耗状況												年齢区分 (推定年齢) 備考
	i ₁ I ₁	i ₂ I ₂	i ₃ I ₃	c	P ₁	m ₁ P ₂	m ₂ P ₃	m ₃ P ₄	M ₁	M ₂	M ₃		
A3439 右				[C ×	P ₁ ×	P ₂ ☒	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ ×	M ₂ ×	M ₃ ×	成獣	
A3631 右									[M ₁ ×	M ₂ ×	M ₃ ×	成獣	
A4228-1 右	I ₁ ×	I ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ ×	M ₃ ×	若獣	
A5895 右	I ₁ ×	I ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ☒	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
A5897-4 右				[C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ c	P ₄ ×	M ₁ d	M ₂ d	M ₃ ×	老獣	
A6058 右				[C ×	P ₁ ☒	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ d	M ₁ d	M ₂ ×	M ₃ ×	老獣	
A6111-1 右	I ₁ ×	I ₂ ?	I ₃ c	C ?	P ₁ ×	P ₂ c	P ₃ ?	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ ×	M ₃ ×	若獣 (3才未満)	
A8266-2-2 右	I ₁ ×	I ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ c	若獣	
A9325 右				[C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ e	若獣	
A12272-4 右	I ₁ ×	I ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ☒	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ ×	M ₂ ×	M ₃ ×	成獣	
A13265 右	I ₁ ×	I ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ c	若獣	
A13432-1 右	I ₁ ×	I ₂ ×	I ₃ ×	C d	P ₁ ×	P ₂ c	P ₃ ☒	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ c	壮齢獣 C破折後咬耗	
A33427 右	I ₁ ×	I ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣 II 過剰歯	
A35711-4 右				[C ×	P ₁ ×	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
A35821-4 右	I ₁ ×	I ₂ c	I ₃ c	C c	P ₁ c	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣 (3才未満)	
A35981-6 右	I ₁ ×	I ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ ×	M ₂ ×	M ₃ ×	成獣	
A36253-1 右		[I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣		
A36551 右	I ₁ ×	I ₂ ×	I ₃ ×	C d	P ₁ c	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ d	M ₂ d	M ₃ ×	壮齢獣	
A36950 右	I ₁ ×	I ₂ ×	I ₃ c	C c	P ₁ c	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ b	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	亜成獣 (6ヶ月程度)	

取上番号 左右	歯の萌出と咬耗状況												年齢区分 (推定年齢) 備考
	i ₁ I ₁	i ₂ I ₂	i ₃ I ₃	c	P ₁	m ₁ P ₂	m ₂ P ₃	m ₃ P ₄	M ₁	M ₂	M ₃		
A41308-2 右				[C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ☒	P ₄ ☒	M ₁ d	M ₂ c	M ₃ ×	老獣	
A43835-1 右	I ₁ ×	I ₂ ×	I ₃ ×	C c	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ☒	P ₄ ×	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
A44867 右	I ₁ ×	I ₂ ×	I ₃ d	C d	P ₁ d	P ₂ d	P ₃ d	P ₄ d	M ₁ d	M ₂ d	M ₃ ×	老獣	
A46660-3 右						[P ₂ c	P ₃ ×					若獣	
A47526 右	[I ₁ ×	I ₂ ×	I ₃ ×	C c	P ₁ ☒	P ₂ ☒	P ₃ c	P ₄ c				若獣	
A48242-7 右				[C ×	P ₁ □	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ c	若獣	
A48459 右	[I ₁ ×	I ₂ ×	I ₃ ×	C c	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ c	M ₁ ×	M ₂ ×		若獣 C破折後咬耗	
A48576 右						[P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
A48606-1 右									[M ₁ d	M ₂ ×	M ₃ ×	老獣	
A48781-3 右									[M ₁ ×	M ₂ d	M ₃ d	老獣	
A50252 右					[C -	P ₁ a	m ₁ ×	m ₂ ×	m ₃ b	M ₁ a		幼獣 (4ヶ月程度)	
A50319-2 右				[C ×	P ₁ ×	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ d	M ₁ d			老獣	
A4202 左	I ₁ ×	I ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ c	P ₂ c	P ₃ d	P ₄ d	M ₁ d	M ₂ ×	M ₃ ×	老獣	
A3437 左				[C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ c	M ₂ ×	M ₃ ×	若獣	
A3910-2 左												不明	
A5028-1 左					[P ₁ ×	[P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ ×	M ₂ ×	M ₃ ×	成獣	
A5687 左												不明	
A5690 左	I ₁ ×	I ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ d	P ₂ ☒	P ₃ ?	P ₄ ?	M ₁ ?	M ₂ ?	M ₃ ?	老獣	
A5690 左					[P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×				成獣	

取上番号 左右	菌の萌出と咬耗状況												年齢区分 (推定年齢) 備考
	i ₁ I ₁	i ₂ I ₂	i ₃ I ₃	c C	P ₁	m ₁ P ₂	m ₂ P ₃	m ₃ P ₄	M ₁	M ₂	M ₃		
A5930 左				[C a	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ a	M ₂ b	M ₃ ×	幼獣 (5ヶ月程度)	
A5981 左				[C ×	P ₁ ×	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ ×	M ₂ ×	M ₃ ×	若獣	
A8372 左				[C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ ×	M ₂ ×	M ₃ ×	若獣	
A15426 左				[C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ c	M ₁ d	M ₂ d	M ₃ ×	老獣	
A17259 左			[i ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ c?	M ₁ c?	M ₂ c	M ₃ -	若獣	
A28554-1 左		[i ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ c	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ ×	M ₂ ×	M ₃ ×	若獣	
A34743 左	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ d	C d	P ₁ c	P ₂ d	P ₃ d?	P ₄ d	M ₁ d	M ₂ d	M ₃ ×	老獣	
A35834-1 左				[C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
A36225-1 左				[C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
A36679 左	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ □	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ ×	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
A39083 左	? ×	[i ₂ b	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ b	M ₁ b	M ₂ ×	M ₃ ×	亜成獣	
A39928 左	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ ×	M ₂ ×	M ₃ -	成獣	
A42117 左	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
A43785-1 左	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
A45459-6 左				[C c	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ b	M ₁ b	M ₂ ×	M ₃ -	亜成獣	
A46847-2 左	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
A47824 左		[i ₂ ×	I ₃ ×	C c	P ₁ c	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ c-d	M ₂ ×	M ₃ ×	若獣	
A48135-3 左									[M ₁ ×	[M ₂ ×	[M ₃ ×	成獣	
A48698-1 左		[i ₂ ×	I ₃ ×	C c	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ c	M ₂ -	M ₃ -	若獣	
B789-14 右									[M ₂ ×	[M ₃ ×		成獣	
B1773-3 右								[P ₄ □	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
B2917-15 右	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
B3148 右	[i ₁ ×	[i ₂ d	I ₃ c-d	C c	P ₁ c	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ c	若獣 (3才程度)	
B3193 右									[M ₂ ×	[M ₃ ×		成獣	
B5488-1 右					[P ₁ c	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ ?	M ₂ ×	M ₃ ×	若獣	
B6727-2 右	[i ₁ ×	[i ₂ d	I ₃ d	C d	P ₁ d	P ₂ d	P ₃ d	P ₄ ×	M ₁ ×	M ₂ -	M ₃ -	老獣	
B6739-2 右	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C c	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ d	M ₁ d	M ₂ d	M ₃ ×	老獣	
B6796 右	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C c-d	P ₁ c	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ c-d	M ₂ ×	M ₃ ×	若獣	
B6841-5 右				[C c	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
B6870-4 右				[P ₁ □	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c		M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
B6923-5 右				c ×		m ₁ c	m ₂ c	m ₃ a	M ₁ -			幼獣 (4か月未満)	
B6962-2 右				[C a	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ b	M ₂ b	M ₃ ×	幼獣 (5ヶ月程度)	
B6983-1 右		[i ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	壮齢獣	
B7025-2 右	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C d	P ₁ d	P ₂ ×	P ₃ d	P ₄ d	M ₁ d	M ₂ d	M ₃ ×	老獣 C・M ₁ ・M ₂ 破折後咬耗	
B7491 右				[C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
B7539-1 右	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ c	P ₄ d	M ₁ ×	M ₂ d	M ₃ ×	老獣	

取上番号 左右	菌の萌出と咬耗状況												年齢区分 (推定年齢) 備考
	i ₁ I ₁	i ₂ I ₂	i ₃ I ₃	c C	P ₁	m ₁ P ₂	m ₂ P ₃	m ₃ P ₄	M ₁	M ₂	M ₃		
B7920 右				[C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ ×	M ₂ ×	M ₃ ×	若獣	
B10964 右	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C c	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
B14662 右	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C c	P ₁ ×	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
B14836 右	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C c	P ₁ c	P ₂ c	P ₃ ×	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
B16398-4 右	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ d	M ₂ d	M ₃ d	老獣 M ₁ 破折後咬耗	
B16711 右				[C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ ×	M ₂ ×	M ₃ ×	成獣	
B17515-1 右						[m ₂ ×	m ₃ ×		M ₁ a	M ₂ a		幼獣 (4ヶ月程度)	
B17561-1 右	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	c ×		m ₁ b	m ₂ b	m ₃ ×				幼獣 (4ヶ月未満)	
B18137 右	[i ₁ ×	[i ₂ d	I ₃ d	C d	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ d	M ₁ d	M ₂ d	M ₃ ×	老獣 C・M ₁ 破折後咬耗	
B18636 右	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C c	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ ×	M ₂ ×	M ₃ ×	若獣	
B18736 右	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ c	C c	P ₁ ×	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ d	M ₃ ×	若獣 (3才未満)	
B2277 左									[M ₁ ×	[M ₂ ×	[M ₃ ×	成獣	
B2459-2 左						[P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ ×			成獣	
B3942 左					[P ₁ ×	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ ×			若獣	
B4318 左	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C c	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
B5977 左				[C ×	P ₁ c	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ c	M ₁ ×	M ₂ ×	M ₃ ×	若獣	
B6964-1 左	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
B7016 左	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	c ×		m ₁ b	m ₂ b	m ₃ ×				幼獣 (4ヶ月未満)	
B7169-3-2 左				[C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ c?	M ₁ c?			成獣	
B15320 左	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C c	P ₁ ×	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
B17447 左	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ d	P ₂ □	P ₃ c	P ₄ c-d	M ₁ c-d	M ₂ d	M ₃ ×	壮齢獣	
B18635 左	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ □	P ₃ ×	P ₄ c	M ₁ c-d	M ₂ ×	M ₃ ×	若獣	
B18749 左	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C c	P ₁ c	P ₂ □	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ c-d	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
B18844 左	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	c ×		m ₁ b	m ₂ b	m ₃ b	M ₁ a			幼獣 (4ヶ月程度)	
AorB668-2 右	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ c	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ ×	若獣	
AorB789-8 右	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ d	C d	P ₁ ×	P ₂ d	P ₃ d	P ₄ d	M ₁ d	M ₂ ×	M ₃ ×	老獣	
AorB2686-3 右				[C ×	P ₁ ×	P ₂ d	P ₃ ×	P ₄ ×	M ₁ ×			老獣	
AorB2807-2 左				[C ×	P ₁ ×	P ₂ c	P ₃ c	P ₄ d	M ₁ c	M ₂ c	M ₃ c	壮齢獣	
AorB3660-2 左	[i ₁ ×	[i ₂ ×	I ₃ ×	C ×	P ₁ ×	P ₂ ×	P ₃ ×	P ₄ c	M ₁ ×	M ₂ ×	M ₃ ×	若獣	
AorB6018-2 左						[P ₂ ×	P ₃ c	P ₄ c	M ₁ ×	M ₂ ×	M ₃ ×	若獣	

表 19 頭蓋骨計測値

凡 例 計測項目の番号は図8と対応、幼獣・亜成獣は級分類を行っていない
 単位はmm、*は推定復元値

取上番号	性別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18								級 (長谷部)
		最大頭蓋長	基底全長	頬骨弓幅	脳頭蓋長	頭蓋幅	頭蓋高	バジオン・プレグマ高	最小前頭幅	前頭骨頬骨突起端幅	後頭三角幅	最小眼窩間幅	顔長	吻長	吻幅	吻高	鼻骨凹陥深	硬口蓋長	硬口蓋最大幅	小白歯列長	白歯列長	大白歯列長	列肉歯長	列肉歯幅	列肉歯幅		
A40624	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	幼
A40780-2	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
A42117	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	61*	29.21	-	-	-	-	-	37.26	49.69	14.14	-	-	-	小
A42420	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	56*	27*	-	-	-	-	-	37.55	47.84	12.92	-	-	-	小
A42498	♀	154.15	145*	88*	86.93	51.13	46	56*	29.46	40.50	55.88	28.32	73.80	67.44	28.70	37	3.75	75.98	54.96	39.10	54.12	15.91	15.61	8.37	-	小	
A44017	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	74*	40.95	53.42	15.04	15.71	-	-	中小	
A46916	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	幼
B2634-1	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	35.40	48.58	13.60	-	-	-	小
B2635-1	♀?	-	-	-	-	49.68	-	-	-	-	-	-	54.84	-	-	-	-	-	-	-	35.41	48.59	13.61	-	-	-	小
B2695-1	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
B3331	♂	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38.88	52.22	14.87	16.45	8.26	-	小
B4715	♀	-	-	-	81.97	48.70	-	61.21	32.62	-	53.62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39.92	52.70	14.75	14.45	7.90	-	小
B6190-1	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
B6659	♀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40.28	-	-	16.70	8.96	-	不明
B6968-1	♀	143*	136*	79.92	77.74	48.15	40	60.22	32.11	41.58	53.96	26.31	70*	62*	27.90	32	4.17	70*	50.87	38.56	51.26	14.76	15.23	8.34	-	小	
B7122	♀	156.83	149.57	89.85	86.07	54.22	48	61.49	34.61	45.82	58.57	32.87	76.73	67.56	32*	38	5.27	75.57	55.35	42.14	53.94	15.23	16.88	8.87	-	中小	
B7478	♂?	-	-	-	-	-	-	-	28.82	38.59	-	27.07	68.27	62.60	30.70	33	5.89	73.38	-	40.24	51.62	15.33	15.07	8.24	-	小	
B14369	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37.41	48.86	14.20	16.24	6.84	-	小
B17848-2	♂	165.49	157.95	100*	86.41	52.22	53	66.27	32.21	49.96	61.35	33.23	84.68	70.96	35.72	44	6.43	80.65	62.36	45.42	56.95	15.85	17.01	9.95	-	中小	
B18549	♀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26.37	-	-	-	-	-	-	-	37.77	48.47	13.30	16.15	8.67	-	亜成
AorB6173-2	♀	155.98	145.19	83*	82.37	49.89	45	60.97	27.95	40.93	53.32	28.60	79.38	67.99	-	37	-	75.14	55.08	41.26	51.92	15.28	15.84	8.31	-	小	
8次1号犬(3875)	♀?	-	124*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
8次2号犬(3903)	♀	162.67	154.84	91*	92.70	52*	49	64.35	34.52	44.22	62.94	31.00	78.70	70.57	32.23	37	3.39	78.33	56.36	44.36	56.76	19.38	16.4	-	-	中小	
A4355	♂	169.76	162.19	103.55	94.16	51.79	51	66.28	32.88	50.28	63.42	33.99	78.72	71.63	37.66	40	7.93	85.02	61.77	43.50	56.00	15.04	16.60	7.99	-	中小	
A5074	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
A5959-2	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40.29	51.26	13.88	-	7.72	-	小
A6026	♂	-	-	-	-	-	-	-	32.07	41.94	-	30.31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
A28187	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
A30365	♀	147.16	142.22	80.14	84.87	48.46	44	57.40	30.20	38.93	57.39	23.64	66.02	62.62	27.08	32	3.33	72.23	52.07	40.49	53.23	15.34	16.38	8.44	-	小	
A32550-1	♂	-	-	-	-	49.73	49	64.10	-	-	59.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	小
A33050	不明	-	-	-	-	-	-	-	33.33	41.28	-	29.40	-	-	-	-	-	-	-	-	41.29	53.07	14.98	16.70	8.83	-	中小
A34007	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	45.07	-	-	18.30	6.52	-	不明
A35832	♂	146.84	-	-	82.17	-	-	-	29.41	41.21	-	29.10	69.14	62.15	29.73	32	5.43	70.35	49.27	37.22	48.87	13.76	15.30	7.48	-	小	
A35837-2	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
A36585	♂	150.49	146.42	92	81.16	49.48	47	60.94	26.87	43.93	57.29	28.11	74.06	64.70	31.94	36	5.88	73.72	53.94	41.58	51.91	13.82	15.73	7.82	-	小	
A36758	不明	-	-	-	70.83	48.18	43	-	31.67	-	47.36	21.72	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	小
A36949-1	不明	-	-	-	72.04	47.93	-	-	32.47	32.53	-	22.22	55.87	-	27.46	-	-	-	-	47.08	34.26	43.27	13.87	14.99	8.00	-	亜成
A40906	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
A40988	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14.32	15.54	8.04	-	不明
A40989	♀	-	-	-	80.97	49.54	44	61.09	30.00	39.30	55.16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.18	14.71	7.91	-	小
A42430	不明	-	-	79	73.17	52.33	44	55.70	33.67	37.44	53.36	26.10	-	-	-	33	-	-	53.40	38.77	49.72	15.35	15.88	9.06	-	小	
A50620-1	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15.98	16.64	9.01	-	不明
B609	♂	-	-	-	87.47	50.21	46	62.42	31.87	43.27	54.91	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	中小
B2616-1	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
B3392-5	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
B4335-1	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
B4529-2	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
B6709	♀	-	-	-	-	-	-	-	35.98	48.62	-	33.68	81.15	72.85	34.43	37	5.45	79.91	60.14	44.77	57.71	15.93	18.31	9.12	-	中小	
B6699-3.4	♂	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明

Ⅳ 青谷上寺地遺跡の弥生犬一頭蓋骨・下顎骨資料の検討から一

取上番号	左右	19	20	21	22	23	24	25	26	27								
		下顎骨全長1	下顎骨全長2	下顎枝高	下顎枝幅	下顎体高1	下顎体高2	下顎体高3	下顎体厚	咬筋窩深	全歯列長	頬歯列長	小白歯列長	白歯列長	大白歯列長	犬歯部長	列肉歯長1	列肉歯長2
B2719	左	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
	右	-	-	-	-	23.81	23.09	-	11.23	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
B6292	左	-	-	-	-	22.29	20.34	18.36	11.00	-	-	31*	61*	31.73	-	20.25	19.46	中小
	右	-	-	-	-	-	20.00	18.35	11.24	-	-	73.08	33.39	62.49	32.36	11.88	20.82	
B6770	左	104*	105*	39.66	25.96	20.36	19.53	18.27	8.28	5.95	-	-	-	-	-	-	17.99	17.76
	右	104*	105*	39.99	26.13	20.31	19.45	17.62	8.10	5.75	71*	68.71	-	-	28.57	-	17.92	17.14
B15492-2	左	-	111*	46.35	28.94	23.60	20.65	18.74	10.54	6.62	-	70.14	-	-	27.86	-	17.11	16.50
	右	106.12	110.74	45.50	29.21	23.05	20.58	19.79	10.18	6.84	72.76	69.25	-	-	28.86	-	-	17.37
AorB2703-2	左	-	-	-	-	20.22	19.58	18.35	9.96	-	-	-	29.57	60.83	32.24	-	-	18.80
	右	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
AorB9007-2	左	-	-	-	-	16.99	15.40	13.79	9.82	-	-	-	-	31.05	-	-	20.00	幼
	右	-	-	33.75	-	-	14.83	14.02	9.67	-	-	-	-	-	-	-	18.37	
A3439	右	-	-	-	-	-	-	-	11.43	-	-	-	30.04	-	-	-	-	不明
A3631	右	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
A4228-1	右	-	-	-	28.54	23.01	21.75	20.77	8.48	5.30	-	-	33.88	60.98	26.83	-	16.54	15.03
A5895	右	-	-	41.46	-	22.37	21.52	19.93	10.15	-	-	73.47	32.80	61.09	28.84	13.02	18.81	16.98
A5897-4	右	-	-	-	-	25.18	24.35	23.50	10.58	-	-	-	33.46	63.18	29.58	-	18.74	18.48
A6058	右	-	-	-	-	23.45	21.56	20.12	11.78	-	-	-	30.59	57.79	28.36	-	17.94	17.58
A6111-1	右	-	109*	-	26.22	22.86	20.54	19.73	10.54	5.14	79.01*	73.92	33.51	62.55	31.75	10.83	20.52	18.20
A8266-2-2	右	123.47	124.83	48.42	32.37	23.05	23.22	23.20	11.38	7.75	83.45	78.93	35.91	67.10	31.04	12.40	20.06	19.05
A9325	右	-	-	44.19	28.41	22.75	20.80	20.38	10.21	6.03	-	-	-	31.30	-	-	19.45	18.11
A12272-4	右	117.30	116.24	-	31.01	23.40	21.70	20.27	12.32	6.30	79.43	73.67	28.06	57.70	30.88	16.47	-	19.05
A13265	右	-	-	-	-	22.74	22.33	20.99	11.12	-	-	-	31.95	63.20	32.65	-	20.97	19.92
A13432-1	右	-	125.53	-	31.73	24.85	22.96	22.29	11.04	7.63	86.96	80.30	35.84	66.32	31.93	13.75	20.69	19.36
A33427	右	109.43	111.81	-	27.84	23.10	21.34	19.44	10.30	4.80	78.42	72.82	33.35	62.04	29.35	10.57	18.32	16.72
A35711-4	右	-	-	44.82	29.72	24.00	21.90	20.53	10.62	6.72	-	-	40.81	70.50	40.27	-	18.88	17.51
A35821-4	右	110*	114.25	-	28.58	22.76	19.90	18.72	9.53	5.69	77.42	70.66	30.45	58.56	29.37	13.13	18.33	17.75
A35981-6	右	-	110.53	46.77	28.44	20.90	21.18	20.17	9.20	6.70	76*	72.48	26.26	55.08	30.27	17.94	-	18.30
A36253-1	右	-	117*	46.09	31.30	24.37	24.32	22.90	10.34	7.50	-	73.95	33.09	63.06	30.37	11.15	19.55	18.24
A36551	右	113.56	114.84	43.41	28.31	21.62	20.71	19.26	10.31	5.99	79.37	75.25	31.78	62.62	31.28	12.53	19.66	17.75
A36950	右	-	-	-	-	-	16.01	14.28	4.13	-	-	62*	-	53.16	27.63	10*	-	16.61
A41308-2	右	-	-	-	-	20.66	19.78	17.82	9.63	-	-	-	28.14	57.21	27.81	-	17.90	16.91
A43835-1	右	99.57	100.96	35.31	23.93	18.36	17.72	15.05	9.80	5.32	17.24	11.02	27.61	54.22	29.16	13.52	18.86	17.91
A44867	右	125.54	125.64	48.19	32.53	26.01	25.46	23.86	11.42	8.14	86.05	80.10	34.15	63.75	31.28	15.50	19.45	18.35
A46660-3	右	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A47526	右	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A48242-7	右	-	-	-	28.04	22.19	20.58	18.71	9.89	7.15	-	-	29*	58*	30.82	-	19.89	18.23
A48459	右	-	-	-	-	-	19.11	18.00	9.26	-	-	-	29.11	-	-	-	-	-
A48576	右	-	-	-	-	15.61	15.33	14.33	9.90	-	-	-	-	-	-	-	18.73	-
A48606-1	右	-	-	44.48	-	-	20.64	-	9.20	-	-	-	-	-	-	-	19.57	-
A48781-3	右	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A50252	右	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A50319-2	右	-	-	-	-	-	-	20.09	-	-	-	-	32.15	-	-	-	19.34	18.52
B789-14	右	-	-	-	28.81	-	-	-	-	6.35	-	-	-	-	-	-	-	-
B1773-3	右	-	-	-	23.77	18.30	17.84	16.78	7.76	5.38	-	-	-	-	28.57	-	17.77	17.50
B2917-15	右	-	-	-	-	17.64	16.14	14.91	7.97	-	67.85	63.50	26.07	52.52	27.50	11.21	17.26	16.85
B3148	右	112*	111.57	45.75	27.99	20.64	20.72	19.52	10.23	5.71	79.13	74.05	31.07	61.47	31.71	12.92	20.07	18.25
B3193	右	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B3331	右	113*	111*	-	-	22.95	20.93	18.96	9.70	-	76.41	73.09	30.37	60.12	31.98	13.53	19.91	18.69
B5488-1	右	-	-	42*	-	21.65	20.66	19.25	-	-	-	-	30.12	59.35	30.87	-	-	19.38
B6727-2	右	-	-	-	-	-	-	15.92	-	-	-	-	31*	-	-	-	-	-
B6739-2	右	115*	116*	46.43	30.43	23.15	22.26	21.18	9.66	6.72	80*	75.67	33.73	63.09	29.87	12.67	18.96	17.27
B6796	右	111*	113*	42.43	-	-	20.33	20.06	10.26	-	-	-	32.93	-	-	13.05	19.50	-
B6841-5	右	-	105*	39.74	26.77	19.18	18.76	18.33	9.02	4.72	-	69.64	29.09	58.11	29.51	12.15	17.75	15.79
B6870-4	右	-	-	-	-	22.06	19.75	18.20	10.50	-	-	-	-	-	29.43	-	18.73	17.46
B6923-5	右	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B6962-2	右	-	-	-	-	17.22	16.86	15.50	9.95	-	-	-	-	-	30.82	-	19.34	17.93

取上番号	左右	19	20	21	22	23	24	25	26	27									
		下顎骨全長 1	下顎骨全長 2	下顎枝高	下顎枝幅	下顎体高 1	下顎体高 2	下顎体高 3	下顎体厚	咬筋窩深	全歯列長	頰歯列長	小白歯列長	白歯列長	大白歯列長	犬歯部長	列肉歯長 1	列肉歯長 2	級 (長谷部)
B6983-1	右	-	-	-	-	23.47	21.72	19.41	11.03	-	-	72.93	34.54	62.07	30.01	11.58	19.96	19.19	中小
B7025-2	右	115*	120*	45.08	28.48	23.02	22.50	22.50	10.46	7.23	82*	79*	34.40	65.42	31.38	13.66	19.09	17.80	中小
B7120	右	110*	113*	42.03	28.65	22.41	20.08	19.52	10.70	5.79	-	-	32.58	61.35	29.93	-	19.06	17.72	小
B7478	右	-	-	-	-	21.70	19.80	18.85	9.13	-	77.08	69.77	31.04	60.02	29.80	9.96	-	17.43	小
B7491	右	-	-	-	29.22	21.18	20.34	19.43	10.02	6.23	-	-	31.79	58.59	27.45	-	19.17	18.26	小
B7539-1	右	-	105.57	42.05	27.77	20.59	19.97	19.37	8.90	5.73	71.29	65.90	-	27.57	13.86	-	16.36	-	不明
B7920	右	-	-	-	34.35	26.36	24.32	21.63	11.94	7.76	-	-	-	34.53	-	-	21.86	-	不明
B10964	右	-	-	-	-	-	21.42	20.44	10.18	-	-	-	-	-	-	18.78	17.02	-	不明
B14662	右	-	-	-	-	21.45	20.67	19.89	9.91	-	77.49	71.04	31.08	59.62	29.09	11.09	18.64	17.22	小
B14836	右	100*	102.99	-	25.59	21.34	19.24	18.08	8.27	5.53	71.67	66.99	27.56	54.34	27.21	12.84	17.21	14.31	小
B16398-4	右	-	125.83	50*	33.47	26.41	24.67	23.60	11.01	8.35	-	77.94	25.26	63.03	27.89	14.06	17.89	16.41	中
B16711	右	-	-	-	-	23.50	23.06	19.25	9.80	-	-	-	36.09	67.12	33.08	-	-	19.96	中
B17515-1	右	-	-	30.12	22.12	-	-	-	-	3.17	-	-	-	-	-	-	-	-	幼
B17561-1	右	55.33	56.84	20.12	15.15	-	-	-	-	1.84	-	-	-	-	-	-	-	-	幼
B18137	右	116*	119.30	-	30.34	22.96	22.00	21.55	9.38	7.44	80.20	74.76	31.67	60.89	29.72	14.42	19.00	17.61	中小
B18636	右	-	108.86	-	28.78	21.40	19.87	19.41	9.72	5.05	74*	70*	-	28.09	-	-	17.24	-	小
B18736	右	112.79	112.73	41.89	24.63	21.64	21.47	19.90	10.26	5.46	82.61	75.93	35.57	64.83	30.87	11.90	18.54	17.10	小
A4202	左	-	120*	-	30.32	27.62	24.92	23.90	12.39	7.73	80.12*	75.98	32.77	60.50	28.28	16.15	17.56	17.01	中小
A3437	左	102*	105*	41*	26.86	22.37	23.09	21.21	10.72	4.94	-	-	32.18	59.99	29.58	-	18.50	17.88	小
A3910-2	左	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
A5028-1	左	-	-	47.42	29.91	23.03	23.05	21.38	10.59	6.88	-	-	-	-	29.08	-	-	17.24	不明
A5687	左	-	-	49.01	33.44	-	-	-	-	7.98	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
A5690	左	103*	104.88	41.06	19.67	22.10	19.72	18.00	9.79	6.67	74.03	68.43	27.82	55.75	29.59	12.81	18.43	18.20	小
A5690	左	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
A5930	左	84*	86*	-	19.72	18.15	14.20	14.84	10.08	3.14	-	59.78	26.55	50.33	26.51	9.88	-	-	幼
A5981	左	102*	-	-	26.51	23.27	20.85	19.92	11.85	5.28	74*	67.13	30.93	60.90	31.67	-	-	20.32	小
A8372	左	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
A15426	左	-	109*	-	27.62	21.49	19.84	19.31	10.21	6.83	-	-	31.29	60.80	29.69	-	17.16	16.45	小
A17259	左	-	-	-	-	23.04	20.07	20.14	10.57	-	-	-	-	-	-	-	18.23	17.35	不明
A28554-1	左	117*	120*	48.59	30.56	24.64	24.98	23.18	11.08	6.40	-	77.98	35.96	63.91	28.64	14.30	-	18.09	中小
A34743	左	112.03	113.51	44.79	27.42	21.54	21.20	20.57	10.12	6.51	78.92	74.43	32.60	60.96	29.02	13.61	19.04	17.88	小
A35834-1	左	-	-	-	-	-	-	-	9.98	-	-	-	-	-	30.98	-	19.70	17.82	不明
A36225-1	左	-	110*	-	27.15	21.97	20.28	19.16	9.21	7.05	-	-	28.72	57.93	28.42	-	17.63	16.79	小
A36679	左	-	-	-	-	25.22	24.94	23.71	10.78	-	-	78.98	35*	65*	30.63	-	19.33	18.00	中小
A39083	左	-	-	-	-	-	15.59	14.58	9.15	-	67*	64*	27.61	54*	27*	10.63	17.36	17.31	亜成
A39928	左	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15.28	-	-	不明
A42117	左	-	-	-	-	21.99	19.60	18.53	9.83	-	77.64	68.18	31.79	61.65	29.61	-	18.72	17.38	中小
A42420	左	100.48	102.87	39.17	25.46	20.94	20.44	19.92	9.78	6.10	70.33	66.06	27.68	53.74	26.90	12.63	16.93	15.81	小
A43785-1	左	100.14	100.66	35.38	23.74	18.69	17.81	16.40	9.81	5.35	73.45	69.27	28.06	56.36	28.77	13.84	18.37	16.83	小
A44017	左	-	113*	-	27.90	21.33	20.72	19.02	9.66	6.92	-	74.14	31.44	61.08	30.70	11.58	18.94	17.54	中小
A45459-6	左	-	-	-	-	-	18.11	17.49	10.57	-	-	-	31.08	-	-	-	18.74	18.07	亜成
A46847-2	左	110.45	113.34	43.94	27.44	20.93	20.26	19.42	9.92	6.19	77.85	72.53	31.03	60.46	28.90	13.50	19.58	17.74	小
A47824	左	-	115*	43.41	27.90	22.02	21.89	20.12	10.31	6.49	-	74.15	31.68	60.35	29.77	13.88	19.67	18.66	中小
A48135-3	左	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
A48698-1	左	-	-	-	-	-	-	19.78	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
B2277	左	-	-	-	-	19.79	19.39	-	9.61	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
B2459-2	左	-	-	-	-	-	22.17	19.94	9.79	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
B3942	左	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31.36	-	-	-	-	-	不明
B4318	左	-	-	-	-	22.12	20.14	19.14	9.04	-	76.28	70.27	32.76	59.59	22.67	11.26	16.52	15.67	小
B4715	左	-	108*	-	25.97	19.29	18.95	17.86	9.67	5.82	-	69.23	30.90	57.49	26.09	12.07	17.30	15.83	小
B5977	左	-	-	45*	29.60	21.85	20.62	19.02	11.34	-	-	-	31.42	60.96	32.86	-	-	20.15	小
B6190	左	111*	113*	42.30	27.17	19.97	18.57	17.17	9.87	5.56	78*	75.41	31.93	63.25	31.37	12.56	19.67	17.61	小
B6964-1	左	116*	122*	44.33	30.08	24.74	23.16	21.87	10.44	6.84	83*	76.47	35.41	63.62	30.02	13.17	19.72	18.50	中小
B7016	左	65*	67*	22.38	17.43	-	-	-	-	2.47	-	-	-	-	-	-	-	-	幼
B7142	左	-	-	-	-	21.79	20.73	20.25	10.65	-	-	-	-	-	30.02	-	19.05	17.19	不明
B7169-3-2	左	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	36.03	-	-	-	-	-	不明
B15320	左	119*	120.55	-	29.69	22.43	24.77	20.80	14.40	5.46	86.19	78.71	33.31	64.77	32.25	13.53	20.03	19.49	中小

IV 青谷上寺地遺跡の弥生犬一頭蓋骨・下顎骨資料の検討から一

取上番号	左右	19	20	21	22	23	24	25	26	27									
		下顎骨全長1	下顎骨全長2	下顎枝高	下顎枝幅	下顎体高1	下顎体高2	下顎体高3	下顎体厚	咬筋窩深	全歯列長	頬歯列長	小白歯列長	白歯列長	大白歯列長	犬歯部長	列肉歯長1	列肉歯長2	級(長谷部)
B17447	左	126*	126*	50.22	34.27	26.50	24.73	23.48	12.27	8.13	85*	78.84	32.12	61.64	31.59	16.66	20.03	19.14	中
B17848-2	左	107*	110*	43.48	28.71	21.83	21.19	19.90	10.89	7.68	75*	69.40	29.41	57.84	29.24	12.65	19.43	16.80	小
B18635	左	-	-	-	-	21.17	21.29	19.61	10.25	-	74*	68.80	31*	57*	26.37	-	17.94	17.20	小
B18749	左	111.56	111.28	-	24.48	21.62	22.25	19.12	10.37	4.88	81.38	74.98	-	-	29.91	-	18.85	16.95	小
B18844	左	75*	76.62	25.70	19.93	-	-	-	-	3.22	-	-	-	-	-	-	-	-	幼
AorB668-2	右	115*	114.57	46.08	30.51	23.27	22.05	21.17	10.58	7.16	-	74.15	-	-	30.17	-	19.84	17.81	中小
AorB789-8	右	111.09	111.37	44.70	26.79	22.72	20.98	19.86	9.83	6.58	75.68	71.37	29.68	56.45	27.32	14.50	17.50	16.40	小
AorB2686-3	右	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29.60	-	-	-	-	-	不明
AorB2807-2	左	-	-	40.98	26.49	20.49	19.74	19.29	9.29	6.76	-	73.70	31.18	60.01	28.48	14.21	18.81	17.55	小
AorB3660-2	左	-	-	-	-	21.08	20.87	19.64	10.82	-	78.13	-	31.28	61.95	31.70	-	-	19.18	中小
AorB6018-2	左	-	-	-	-	18.92	20.86	18.82	9.35	-	-	-	-	-	28.27	-	-	16.80	不明

青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報 2020

発行 2021年8月31日

編集 鳥取県地域づくり推進部文化財局
とっとり弥生の王国推進課
青谷上寺地遺跡整備室

〒689-0592 鳥取市青谷町青谷 667 番地
電話 (0857) 85-5011

発行者 鳥取県地域づくり推進部文化財局

印刷 山本印刷株式会社